

プロジェクター

CX-E1

CX-F1*

*ネットワークモデル

バッテリー (別売品)

YA-B10

取扱説明書

- 必ず「安全上のご注意」および「使用上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も大切に保管してください。
- 本書の最新版は下記ウェブサイトに公開されております。
<https://world.casio.com/manual/projector/>

本装置は、VCCI協会の技術基準(クラスB)に適合しています。

VCCI-B

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しています。

- DLPIは、米国テキサス・インスツルメンツ社の登録商標です。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- その他本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
- 本製品の一部には、Independent JPEG Groupの技術を使用しています。

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複製することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本製品使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求につきましても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理などに起因するデータの消失による、損害および逸失利益などにつきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 取扱説明書に使用されている表示画面は、取扱説明書用に特別に作成されたもので、一部、実際の製品と異なることがあります。

目次

■が付いている見出しは、ネットワークモデルのみが対象です。

安全上のご注意.....	6
使用上のご注意.....	15
光源ユニットについて.....	15
投映光を塞がない・遮らない/レンズをのぞかない.....	15
レーザーにご注意 (製品ラベルをご確認ください).....	16
無線アダプターYW-41の使用に関するご注意 ■.....	17
ACアダプターに関するご注意.....	18
バッテリー (YA-B10、別売品)に関するご注意.....	18
充電についてのご注意.....	18
バッテリー使用上のご注意.....	19
バッテリー保管時のご注意.....	19
バッテリーの廃棄に関するご注意.....	19
ソフトインナーケース (YB-3、別売品)に関するご注意.....	19
その他のご注意.....	20
本体の移動時のご注意.....	22
準備.....	23
内容物のご確認.....	23
投映までの操作の流れ.....	23
各部の名称.....	24
操作パネルとインジケーター.....	25
電源の準備.....	26
ACアダプターを使う.....	26
バッテリーを使う.....	27
電源を入れる.....	31
電源を切る.....	32
机上や床への設置について.....	33
設置角度の調節.....	34
設置場所に関するご注意.....	35

外部機器との接続	35
HDMI接続	35
無線LAN接続 ■	36
本機から外部機器への音声出力 ■	36
LOGO端子について(ファームウェア更新、ユーザーロゴ転送)	37
リモコン(別売品)について	38
各種操作	39
入力ソースの自動切替 ■	39
よく使う機能メニュー	40
電源の接続状態とバッテリー残量表示	41
投映画面の台形歪みを補正する(縦台形補正・横台形補正)	42
投映輝度を調節する(ライトコントロール)	42
音量を調整する ■	44
入力ソースを切り替える ■	44
設定メニューを使う	45
設定メニューを表示する	45
設定メニューを使った各種操作	45
アスペクト比(投映映像の縦横比)を切り替える	45
映像に適した色調(カラーモード)を選ぶ	46
左右反転して投映する(ミラーモード)	47
テストパターンを投映する	47
操作パネルロック	48
設定メニュー項目一覧	49
リモコン(別売品)で利用できる機能	53
オートプロジェクションオフを利用する	54
オートプロジェクションオフの有効/無効を切り替える	55
オートプロジェクションオフによる投映ライトの消灯について	55
プレゼンテーションタイマーを使う	56
タイマーファンクションメニューを表示するには	56
タイマーを表示するには(リモコン操作のみ)	56
タイマーの各種設定を変更するには	57
タイマーの各種操作	57
パスワード機能の利用	58
パスワード機能の設定操作	58
パスワード機能のご利用にあたり	59
ご自分のパスワードを忘れてしまった場合には	59

クリーニングについて	60
本機外部のクリーニング	60
レンズのクリーニング	60
吸気口などのクリーニング	60
故障かな？と思ったら	61
正常時のインジケーター	61
エラー発生時のインジケーター表示とメッセージ	62
エラーメッセージ一覧	62
エラー発生時のインジケーター表示一覧	63
本機のトラブルと対処について	64
シリアルナンバーとBoard No.の確認方法	66
補足情報	67
本機を天井から吊して設置する	67
投映距離と投映サイズについて	68
アスペクト比設定と投映画面について	69
対応信号一覧	70
仕様	71
プロジェクター仕様	71
バッテリー仕様 (YA-B10、別売品)	72
ソフトインナーケース仕様 (YB-3、別売品)	73

安全上のご注意

このたびは本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
本書は、お読みになった後も大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品での表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

 危険	死亡または重傷を負う可能性が大きい内容を示しています。
 警告	死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。
 注意	軽傷を負う可能性および物的損害が発生する可能性がある内容を示しています。

絵表示の例



⊘記号は「してはいけないこと」を意味しています。
(左の例は分解禁止)



△記号は「気を付けるべきこと」を意味しています。
(左の例は感電注意)



●記号は「しなければならないこと」を意味しています。
(左の例は電源プラグをコンセントから抜く)

⚠ 危険

バッテリー (YA-B10、別売品) について

- バッテリーは指定以外の方法で充電しない。



本書で指定されている以外の方法で充電すると、バッテリーを発熱・発火・破裂させる恐れがあります。

- バッテリーに液体 (水や海水など) をかけたり、濡らしたりしない。



バッテリーの破損や、性能・寿命を低下させる原因となります。

- バッテリーの上に花瓶など液体の入ったものを置かない。



バッテリーに液体がかかると、バッテリーの破損や、性能・寿命を低下させる原因となります。

- バッテリーは指定以外の機器に使用しない。



バッテリーはCX-E1/CX-F1専用です。指定以外の機器に使用すると、バッテリーの破損や、性能・寿命を低下させる原因となります。

- めれた手でバッテリーに触れない。感電の原因となります。



感電の原因となります。

- バッテリーの使用時は必ず、次のことを守る。
バッテリーを発熱・発火・破裂させる恐れがあります。



分解・改造しない。



- 火のそばで使用したり、放置したりしない。
- 火の中に投入したり、加熱したりしない。
- 導電性異物 (金属製のネックレスやコインなど) と一緒に持ち運んだり、保管したりしない。
- 針を刺したり、強い衝撃 (ハンマーで叩く、踏みつけるなど) を与えたりしない。
- 電子レンジ、乾燥機、高压容器などに入れない。

- バッテリーに異常があるときは、直ちに使用を中止する。



バッテリーの使用時、充電中、保管中に、漏液、異臭、発熱、変色、変形、外傷、その他異常があると思われるときは、直ちにプロジェクター本体やACアダプターから取り外し、使用を中止してください。

- バッテリー使用・保管場所のご注意
バッテリーを直射日光の強い場所や、炎天下の車内など高温の場所で使用したり、保管・放置したりしないでください。バッテリーの発熱・発火や、性能・寿命を低下させる原因となります。



- バッテリーから漏れた液が皮膚や衣服についたら、きれいな水で洗い流す。



目に入った場合は、失明などの恐れがあります。洗い流した後、すぐに医師の診察を受けてください。

本機の使用上のご注意



子供が本機に近づいたり触れたりする可能性がある場合は、必ず大人の管理・監督のもとで使用する。

リモコン用乾電池について

● 電池から漏れた液が皮膚や衣服についたら、きれいな水で洗い流す。



目に入った場合は、失明などの恐れがあります。洗い流した後、すぐに医師の診察を受けてください。

ACアダプターについて

● めれた手でACアダプターに触れない。



感電の原因となります。

ぬれ手禁止

● ACアダプターの使用時は必ず、次のことを守る。
使い方を誤ると、火災・感電の原因となります。



● 指定のACアダプター以外は絶対に使用しない。
● 指定の機器以外には絶対に使用しない。



● 分解・改造しない。

分解禁止



● 火のそばで使用したり、放置したりしない。
● 火の中に投入したり、加熱したりしない。
● ストーブなどの熱器具に近づけない。
● 重いものを乗せない。
● 加工したり、傷つけたり、無理に曲げたりしない。
● コードをねじったり、引っ張ったりしない。
● コードに足を引っ掛けない、コードを蹴らない。

● 布団、毛布などをかぶせて使用したり、熱器具のそばで使用したりしない。



ACアダプターの放熱が妨げられることで周辺温度が上昇し、火災の原因となります。

● ACアダプターに液体(水や海水など)をかけたり、濡らしたりしない。液体がかかると、火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● ACアダプターの上に花瓶など液体の入ったものを置かない。



液体がかかると、火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 雷が鳴り始めたら、ACアダプターに触れない。

感電の原因となります。



感電注意

● 外出時はACアダプターをコンセントから抜いて、動物・ペットが近づくことができない安全な場所に保管する。



ペットがコードに噛みつくと、ショート(短絡)による火災の原因となります。

異常(煙・臭い・発熱など)について

- 発煙・異臭・発熱などの異常状態で使わない。落としたりするときなど破損したまま使わない。



火災・感電の原因となります。すぐに次の処置をしてください。

1. 電源プラグをコンセントから抜き、本機からACアダプター(またはバッテリー)を取り外す
2. 「修理に関するお問合せ先」に連絡する

故障時は使用しない

- 画面が異常など故障状態のときはそのまま使わない。



そのまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置をしてください。

1. 電源を切る
2. 電源プラグをコンセントから抜き、本機からACアダプター(またはバッテリー)を取り外す
3. 「修理に関するお問合せ先」に連絡する

電源コードについて

- 電源コードによる火災・感電を防ぐため、次のことは必ず守る。



- 電源コードは、必ず、付属品を使用する
- 電源プラグは、アース付AC100V(日本国内の場合)のコンセントに接続する
- 電源プラグをコンセントに差し込む前に、アースを接続する
- 電源プラグをコンセントから抜いた後、アースを外す
- 電源コードが傷んだら、「修理に関するお問合せ先」に連絡する



- 付属の電源コードを、本機以外に使用しない
- 電源は、AC100V(50/60Hz)以外のコンセントは使わない
- たこ足配線をしてはいけない
- 他の電気機器と同じコンセントを使わない
- 延長コードを使う場合は、延長コードのアンペア数値に注意
- 布団、毛布などをかぶせて使わない、熱器具のそばで使わない
- 重いものを乗せない、電源コードを束ねたまま使わない
- 電源プラグの周りに物を置かない(非常時に電源プラグを抜くため)
- 加熱しない、加工しない、傷つけない
- 無理に曲げない、ねじらない、引っ張らない
- 設置時にラックや壁などにはさみ込んだり、電源コードの上を敷物などで覆わない

- めれた手で電源プラグに触れない。感電の原因となります。



めれた手禁止

水、異物はさける

- 水、液体（スポーツドリンク、海水、動物・ペットの尿など）、異物（金属片など）が本機の内部に入らないようにする。もし、入ったら、すぐに次の処置をする。

 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

1. 電源を切る
2. 電源プラグをコンセントから抜き、本機からACアダプター（またはバッテリー）を取り外す
3. 「修理に関するお問合せ先」に連絡する

- 本機の上やそばに花瓶など液体の入ったものを置かない。

 倒れて、液体がかかると火災・感電の原因となります。

分解・改造しない

- 本機を分解・改造しない。内部の点検・調整・修理は「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にご依頼ください。

 内部には高電圧部分が多くあり、感電・やけど・けがをする原因となります。
分解禁止

袋をかぶらない、飲み込まない

- 包装に使用している袋で遊ばない。かぶる、飲み込む、などの行為は、窒息の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

落とさない、ぶつけない

 本機を落としたときなど、破損したまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源を切る
2. 電源プラグをコンセントから抜き、本機からACアダプター（またはバッテリー）を取り外す
3. 「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店に連絡する

火中に投入しない

 本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。

点灯中にのぞかない

- 点灯中にレンズや吸気口／排気口をのぞきこまない。
-  強い光が目に入り視力障害などの原因となります。

吸気口／排気口を塞がない

- 吸気口／排気口を塞がない。次のことは必ず守る。
-  塞ぐと本機の内部に熱がこもり、火災・故障の原因となります。

- 風通しの悪い場所や密閉された空間に設置しない、布などを掛けない
- 本機の吸気口／排気口に空調の風などを当てないように設置する
- じゅうたん・布団・タオルなどの柔らかい物の上や、座部の柔らかいすなどに置いて使わない（堅い平面に置いて使用してください）

吸気口／排気口の詳細は、下記URLの設置情報をご覧ください。

<https://support.casio.jp/information.php?cid=007&pid=1419>

警告

ケースを開けない

- プロジェクターのケースを開けない。感電の恐れがあります。



吸排気口について

- 投映中は吸排気口に触れたり、吸排気口の近くにプラスチックなどの高温に弱い物を置いたり下に敷いたりしない。



やけど、物の変形・変色の原因となります。

光を遮るものを置かない

- 投映中にレンズの前に光を遮るものを置かない。



火災の原因となります。

投映中にレンズの前に水槽などレンズ効果をもたらす物を置かない

- 火災の原因となります。



レンズには手を触れない

- 投映レンズには手を触れない。やけどや故障の原因となります。



ぬれ手禁止

置き場所・使用場所について

- 次のような場所に置かない、使わない。



火災・感電の原因となります。

- 湿気やほこりの多い場所

- 台所や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる場所
- 振動の多い場所
- その他、高温や低温の所 (本機は5℃～35℃の環境内でご使用ください)

- ぐらついた台の上や高い棚の上など、不安定な場所に置かない。



落下・転倒時には、けがの原因となります。

設置場所について

- 本機の上に重い物を乗せない、本機の上に乗らない。



火災・感電の原因となります。

- 水場や風呂場などの水にぬれる所に置かない。



火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 車輪をロックする。(台車などの上で使う場合)



落下・転倒時には、けがの原因となります。

雷が鳴り始めたら、電源コンセントに接続されている機器に触れない

感電の原因となります。



感電注意

リモコンについて



分解禁止

リモコンを分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。内部の点検・調整・修理は「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店にご依頼ください。



リモコンに水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。

無線アダプターYW-41について

- 無線アダプターを小さなお子様の手が届く場所には置かない。



誤って飲み込むと窒息や傷害の原因となります。

- 無線アダプターYW-41の電波について



航空機内や病院など、使用を禁止された場所では絶対に使用しないでください。電子機器や医用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。



高精度な電子機器または微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、使用しないでください。電子機器が誤作動するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。

- ペースメーカー、その他医用電気機器を使用されている方は、医師または医用電気機器メーカーにご相談ください。

LOGO端子カバーについて

- LOGO端子カバーを小さなお子様の手が届く場所には置かない



誤って飲み込むと窒息や傷害の原因となります。

可燃性ガスのスプレーについて

- 可燃性ガスのスプレーを使わない
- 
- 本機の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。引火による火災の原因となります。

他の電子機器への影響について

- 病院内や航空機内では、病院や航空会社の指示に従う。使用禁止の場所で、使用しない。
- 
- 本機からの電磁波などが計器類に影響を与え、事故の原因となります。
- 高精度な電子機器または微弱な信号を取り扱う電子機器の近くで使用しない。
- 
- 電子機器が誤作動するなどの影響を与え、事故の原因となります。
- 心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、本機を胸部から離して使う。
- 
- 心臓ペースメーカーなどに磁力の影響を与えることがあります。異常を感じたら直ちに本機を体から離し、医師に相談してください。

⚠ 注意

ACアダプターについて

- ACアダプターを清掃する際のご注意
 ACアダプターを電源コードと接続するコネクタ部分や、コードのプラグ部分を清掃する際は、洗剤を使用しないでください。

バッテリー (YA-B10、別売品) について

- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめる。
 バッテリーを発熱・発火・破裂させる原因となることがあります。
- バッテリーを使用・充電する前に必ず、本書のバッテリーに関する説明を読む。
 バッテリーは本書の説明に従って、正しくご使用ください。
- バッテリーは子供の手の届かないところに保管する。
 子供がバッテリーに近づいたり触れたりする可能性がある場合は、必ず大人の管理・監督のもとで使用してください。
- バッテリーをペットの近くに置かない。
 ペットがバッテリーに噛みついた場合、バッテリーの液漏れや、バッテリーを発熱・発火・破裂させる原因となることがあります。

電源コードについて

- 電源コードによる火災・感電を防ぐため、次のことは必ず守る。

 - 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
 - 電源プラグは年1回以上コンセントから抜いて、電源プラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように乾いた布で清掃する
 - 本体を移動する場合は、電源を切り、電源コードを取り外す
- 使用後は、電源プラグをコンセントから抜く
 電源プラグを抜く
- 長時間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない(必ず電源プラグを持って抜く)
- 電源コード (特に電源プラグやジャック部分) の清掃には、洗剤を使わない

大切なデータは控えをとる

-  本機に記憶させた内容は、ノートに書くなどして本機とは別に必ず控えを残してください。本機の故障、修理などにより、記憶内容が消えることがあります。

⚠ 注意

リモコン用乾電池について

- 破裂による火災・けが、液漏れによる周囲の汚損を防ぐため、次のことは必ず守る。
 - ⚠ 極性（＋と－の向き）に注意して正しく入れる
 - 長時間使用しないときは、本機から電池を取り出ししておく
 - 電池が消耗した場合は、速やかに電池を交換する
- ⊘ 被覆のはがれた電池は使わない
- 分解しない、ショートさせない
- 充電しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使わない
- 種類の違う電池を混ぜて使わない
- 加熱しない、火の中に投入しない
- 本機で指定されている電池以外は使わない

磁石について

- ⚠ 本機は磁石を内蔵しております。ペースメーカー、その他医療用電気機器を使用されている方は、機器から離して使用してください。万一異常を感じたら、ただちに本機のそばから離れ、医師に相談してください。
- ⊘ 本機をフロッピーディスク、磁気カード、磁気テープ、プリペイドカード、切符などの磁気記録媒体に近づけないでください。本機を磁気記録媒体に近づけると、記録を破壊することがあります。

その他

内部にホコリが付着したまま長時間清掃をしないと、輝度の低下や火災、故障の原因となることがあります。1年に一度は、内部の清掃（有償）を、「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店にご依頼ください。特に湿気の多くなる梅雨の前に清掃を行うことをお勧めします。

お手入れについて

- お手入れの際は、電源を切って電源プラグをコンセントから抜き、本機からACアダプター（またはバッテリー）を取り外す。
 - ⚠ 感電の原因となることがあります。また、電源コードが傷つくと、火災・感電の原因となります。
- 1年に一度は、内部の清掃（有償）を、「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店に依頼する。
- ⚠ 長時間のほこりの付着は、火災や故障の原因となることがあります。

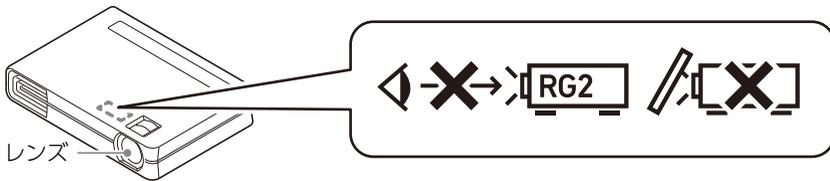


使用上のご注意

光源ユニットについて

- 本機的光源ユニットには、レーザーおよびLEDを使用しております。
- 光源ユニットの寿命(目安)は、約20,000時間です(光源ユニットの個体差や使用条件、設定メニューの各設定状態などによって差があります)。
- 光源ユニットの保証期間は、保証書記載の製品保証期間または6,000時間のどちらか早い方です。
- 光源ユニットが点灯しなくなった場合や、光源ユニットの明るさが著しく暗くなった場合は光源ユニットの寿命です。「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店に交換をご依頼ください。本機を分解・改造した場合は、保証および修理の対象外になります。

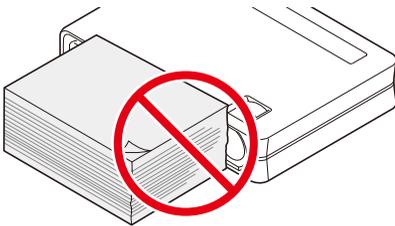
投映光を塞がない・遮らない/レンズをのぞかない



点灯中に投映光を塞いだり、遮ったりしないでください。

- やけど、物の変形・変色の原因となります。
- 火災の原因となります。

一時的に投映を中断したい場合は、投映光を物で遮らずに、電源を切ってください。



メモ

- リモコン(別売品)をお持ちの場合は、[BLANK]キーで投映を中断できます(53ページ)。ただし、「ブランク時画面」で「プロジェクションオフ」以外に設定しているときは、投映光が消えません。



点灯中に光源をのぞかないでください。

特に小さなお子様には十分ご注意ください。

リスクグループ 2

明るい光源のため、ビームをのぞき込まないでください。

RG2 IEC 62471-5:2015

レーザーにご注意(製品ラベルをご確認ください)

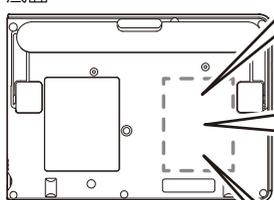
レーザーに関するご注意(ラベル①)

本機は、IEC 60825-1: 2014に適合したクラス1レーザー製品です。

- 本機はレーザーモジュールを内蔵しています。分解・改造は危険ですので行わないでください。
- 取扱説明書で指定した以外の手順で操作や調整を行うと、レーザー放射にさらされる原因となることがあり、危険です。

ラベル①

底面



CLASS 1 LASER PRODUCT クラス 1 レーザー製品

Complies with 21 CFR 1040.10 and 1040.11 except for conformance as a Risk Group 2 LIP as defined in IEC 62471-5: Ed.1.0.
For more information see Laser Notice No.57, dated May 8, 2019.

注意

・内部に異物が入らないようにご注意ください。専用のソフトケース等をご利用ください。・投映中は、排気口が高温になります。排気口に触れたりふさがらないでください。

Caution

・Do not allow anything to get inside of the projector. Keep the projector inside of its special soft case when not in use. ・Vent outlets become very hot during projection. Never touch vents or allow them to become blocked.

VORSICHT

・Lassen Sie keine Objekte in den Projektor geraten. Verwahren Sie den Projektor in seinem speziellen Softcase, wenn er nicht benutzt wird.
・Die Entlüftungsöffnungen werden bei der Projektion sehr heiß. Berühren oder blockieren Sie die Öffnungen nicht.

CASIO COMPUTER CO.,LTD.

6-2, Hon-machi 1-chome Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan

YAMAGATA CASIO CO.,LTD.

5400-1 Higashine-ko, Higashine-city Yamagata 999-3701, Japan

無線アダプターYW-41の使用に関するご注意



無線アダプターYW-41は、付属品または別売品です。「内容物のご確認」(23ページ)を参照してください。

● 2.4GHz帯使用の無線機器について

- 無線アダプターは2.4GHz帯を使用し、変調方式はDS-SSおよびOFDMです。また、想定される与干渉距離は約40mです。
- 無線アダプターの使用周波数帯(2.4GHz)では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局が運用されています。

2.4DS/OF4

1. 無線アダプターを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、無線アダプターと移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局との間で、電波干渉が発生した場合には、速やかに通信チャンネルを変更するか、使用する場所を変えるか、無線アダプターの使用を停止してください。
3. 不明な点がある場合やお困りの場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

● 無線アダプターは、電波法に基づいて技術基準適合証明を受けていますので、無線局の免許は不要です。また、無線アダプターは日本国内でのみ使用できます。

● 無線アダプターは、技術基準適合証明を受けていますので以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。

1. 分解および改造すること
2. 無線アダプターに貼ってある証明ラベルをはがすこと

● Bluetoothや無線LANは、無線アダプターと同じ周波数帯(2.4GHz)を使用しています。これらを利用した製品と無線アダプターとの間で、互いに電波障害を与えることがあります。

● 下記のような環境では、電波状態が悪くなったり、電波が届かなくなったりします。

- 電子レンジ等の磁場、静電気、不要輻射電波の発生する機器の近く
- 鉄筋コンクリート(マンションなど)の建物内
- 鉄骨構造の建物内
- 大型金属製家具の近く
- 各無線機器の間に人が入ったり、間を人が横切るとき
- 各無線機器が別々の部屋にある場合(障害物がある場合)

● 電波の性質と強さ

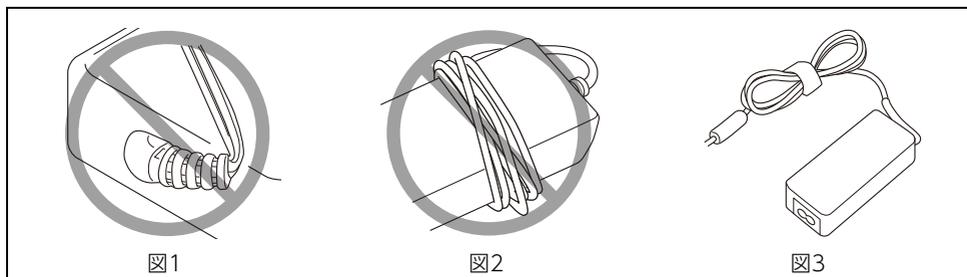
- 電波には、障害物があると反射したり屈折したりする性質があります。そのため、各無線機器に届く電波には、直接届く直接波と反射して届く反射波があります。
- 建物内には、多くの家具、品物、壁がありますので、さまざまな反射波が発生します。この反射波によって、電波状態の良い場所と悪い場所ができます。このため、各無線機器を少し動かすと、状況が良くなる場合があります。

● 電波を使用している関係上、第三者が故意または偶然に傍受することも考えられます。機密を要する重要な事柄や人命に関わることには使用しないでください。

ACアダプターに関するご注意

ACアダプターのコードが断線するのを防止するため、下記の点にご注意ください。

- コードを強く引っ張らない。
- コードを繰り返し引っ張らない。
- コードの根本部分を折り曲げない(図1)。
- コードをACアダプター本体に巻き付けない(図2)。
- コードを束ねるときは、根本に負荷がかからないように、面ファスナーで固定する(図3)。



イラストはすべてイメージです。付属のACアダプターとは、差異があります。

バッテリー(YA-B10、別売品)に関するご注意



バッテリーに関するご注意

- 爆発、または可燃性の液体もしくはガスの漏出をもたらす可能性があるため、次のことは避けてください。
 - 火中または焼却炉への廃棄、機械的な押し潰しまたは切断
 - 使用、保管または輸送中に受ける過度の高温または低温
 - 使用、保管または輸送中に受ける過度の低い気圧

充電についてのご注意

- バッテリーは周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。範囲外の温度環境では、充電にかかる時間が長くなったり、十分な充電ができなかったりすることがあります。
- バッテリーの周辺温度、またはバッテリー自体の温度が高温または低温の場合、充電ができなくなることがあります。このような場合はバッテリーからACアダプターを取り外し、周囲の温度が10℃～30℃の環境でしばらく放置したあと、同じ温度範囲の環境で充電を再開してください。
- バッテリーの未使用期間が非常に長期化(約半年間)した場合、充電にかかる時間が長くなる場合があります。充電の開始後、約6時間を超えても満充電とならない場合、充電は自動的に停止します。

バッテリー使用上のご注意

- 温度の低い場所ではバッテリーの特性上、常温の場所と比較して、バッテリーによる本機の駆動可能時間は短くなります。
- バッテリーの外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- 充電直後でもバッテリーの使用時間が大幅に短くなった場合は、バッテリーの性能寿命と考えられます。このような場合は、新しいものをお買い求めください。
- バッテリーどうしを接続しないでください。

バッテリー保管時のご注意

- バッテリーは、高温多湿を避けて冷暗所で保管してください。
- 過放電を防止するために、バッテリーは半年に1回程度、60-41%の状態に充電してください。充電率については、「充電中のインジケータ表示」(29ページ)を参照してください。
- バッテリーを長期間(約半年間)充電していなかった場合、充電が開始されないことがあります。このような場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを約1.5か月以上使用しなかった場合、自動的に低消費電力モードになり、給電ができなくなります。このような場合は、バッテリーを充電してください。充電することで低消費電力モードが解除され、給電ができるようになります。
- バッテリーの劣化は、時間が経過するだけでも進行します。劣化の進行は、周辺温度とバッテリーの充電状態に影響されます。特に高温環境での満充電状態のバッテリーは、使用中、保管中にかかわらず劣化しやすくなりますので、ご注意ください。

バッテリーの廃棄に関するご注意

充電式電池の取り扱いについて(リサイクルのお願い)



Li-ion 20

別売品のバッテリー(充電式電池)は、貴重な資源です。資源リサイクルのため、不要になったバッテリーは分解せずに、そのまま充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

<最寄りのリサイクル協力店へ>

詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ <https://www.jbrc.com/>

ソフトインナーケース(YB-3、別売品)に関するご注意

- ソフトインナーケースは、収納したプロジェクターやバッテリーを、傷やほこりから保護するためのものです。落下や外部からの強い衝撃から保護するようには作られていません。
- プロジェクターとバッテリーを接続した状態で、絶対に収納しないでください。
- 電源を切った直後のプロジェクターは、高温になっています。すぐにソフトインナーケースに収納する場合は、取り扱いにご注意ください
- 液体の付着や摩擦などにより、色落ちや変色する場合があります。
- ソフトインナーケースが長時間、衣類などの別素材と密着すると、色落ちや色移り、表面の化学変化などが発生する場合があります。
- 長時間、直射日光にさらされると、色落ちや変色の原因になります。
- 風通しの良い場所に保管することをおすすめします。
- お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。

その他のご注意

本機は精密な電子部品で構成されています。データが正常に保持できなくなったり、故障の原因になりますので、以下のことに注意してください。

- 次のような場所での使用や保管は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。
 - 静電気が発生しやすい場所
 - 極端に高温または低温の場所
 - 湿度の高い場所
 - 急激な温度変化が起こる場所
 - ほこりの多い場所
 - ぐらついた場所や傾いた不安定な場所
 - 水に濡れるような場所
 - 油煙や煙の多い場所
 - 塩害のおそれがある場所
 - 温泉から出る硫黄ガスなどの、腐食性ガスが発生する場所
- 油煙の多い環境では、絶対にご使用にならないでください。特に、油煙の多い環境に本機が天吊り、または壁掛け設置された場合、本機が落下するおそれがあります。
- リモコン受光部に、蛍光灯や直射日光などの強い光が当たらないようにしてください。誤作動の原因となります。
- 次のような使用方法は避けてください。本機の故障・破損の原因になります。
 - 低温や高温の環境では使用しないでください(5℃～35℃の環境でご使用ください)。
 - 本機の上に重い物をのせたり、本機の上のにのらないでください。
 - 本機の中に物を落としたり、入れたりしないでください。
 - 本機の上に花瓶など水が入った物を置かないでください。



指のケガに
注意

- 設置するときや、設置のために底面の操作をするときは、本体の下に手を挟まないようにご注意ください。

- 電池が消耗しますので、リモコンの保管時はキーが押されないようにご注意ください。
- 消耗した電池をリモコンに取り付けたまま長期間放置しないでください。
電池が液もれすることがあります。液もれは故障・破損の原因になることがあります。本機の使用頻度にかかわらず、1年に1度は電池を交換してください。
- お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。
特に汚れがひどい場合は、中性洗剤に浸した布を固くしぼっておふきください。なお、シンナーやベンジンなどの揮発性溶剤は使用しないでください。文字が消えたり、ケースにシミをつけてしまう恐れがあります。
- 画面のドット欠けについて
本商品は、非常に高度な技術を駆使して作られておりますが、画面の一部に非点灯などのドットが存在することがあります。これは故障ではありません。

● **投映中は本体に衝撃を加えないでください。**

投映中に本体に衝撃を加えると、投映が一時的に途切れた後に、画面の変色やエラーが発生することがあります。

画面が変色した場合は、電源を切ってから、再度電源を入れてください。

エラーが発生した場合の対処については、「エラー発生時のインジケータ表示とメッセージ」(62ページ)を参照してください。

● **コンセントは本製品の近くのものを使用し、簡単に抜き差しできる状態でお使いください。**

● **無線アダプターYW-41は、2.4GHz帯のみに対応しています。**

● **台形補正時画質について**

台形補正操作を行うと画像が圧縮されるため、画像が乱れたり画質が低下する場合があります。このような場合は、可能な限り「机上や床への設置について」(33ページ)のイラストの設置状態に近づけてください。イラストの設置状態に近いほど台形補正は少なくて済み、イラストどおりに設置すれば台形補正は不要となります。

画質を重視する場合は、台形補正機能が不要な位置に設置の上、補正を解除してご使用ください。

● **本機は、24時間連続使用などの長期連続運転での使用や本書で規定しております「設置場所に関するご注意」(35ページ)の設置条件を無視して使用された場合、保証期間であっても有償保証とさせていただきます。**

● **ご使用になる環境温度が高い場合や、ほこり、油煙、たばこなどの煙が多い環境下では、光学エンジンなどの交換サイクルが短くなる場合があります。その際、光学エンジンなどの交換が必要になることがあります(有償)。交換時期や修理費用などについての詳細は、「修理に関するお問合せ先」までお問い合わせください。**

● **結露について**

寒い部屋から暖かい部屋へ本機を急に移動したり、部屋を急激に暖房したなどの要因で、本機のレンズ表面や製品の内部が結露し、投映映像がぼやけたり、故障やトラブルの原因になることがあります。このような場合は、本機の電源を切ってしばらくそのままにしてから、再度電源を入れてください。

● **海外では使用しない**

本機は日本国内専用機です。海外では使用できません。

● **電池を廃棄する場合は、必ず地域の条例や自治体の指示に従って廃棄する**

● **本機を廃棄する場合は分解を行わず、必ず地域の条例や自治体の指示に従って廃棄する**



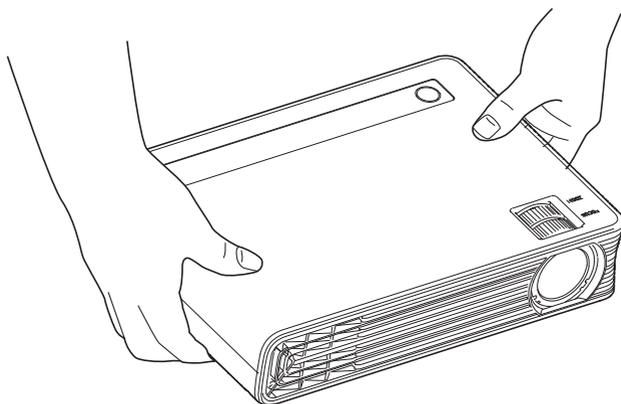
リモコン用乾電池に関するご注意

● **爆発、または可燃性の液体もしくはガスの漏出をもたらす可能性があるため、次のことは避けてください。**

- 本機で指定されていない電池への交換
- 火中または焼却炉への廃棄、機械的な押し潰しまたは切断
- 使用、保管または輸送中に受ける過度の高温または低温
- 使用、保管または輸送中に受ける過度の低い気圧

本体の移動時のご注意

動作中および電源を切った直後は、底面、排気口およびその周辺が高温になっております。本機を移動する際は、必ず本機の電源を切り、ACアダプター(またはバッテリー)を本機から取り外した上で、図のように持ってください。



重要

- 本機を持ち上げたり、運んだりする際は、次のことにご注意ください。
 - － 本機の投射レンズを、指などで触れないようにしてください。投射レンズに傷や汚れが付く原因となります。
 - － 本機を落とさないでください。本機の破損やけがの原因となります。
 - － 本機の内部に、異物(金属片など)が入らないようにしてください。ソフトインナーケース(YB-3、別売品)のご利用をおすすめします。
 - － 本機を持ち上げたり運んだりする前に、必ず本機からすべてのケーブルを取り外してください。

内容物のご確認

パッケージには以下の内容物が含まれていますので、ご確認ください。

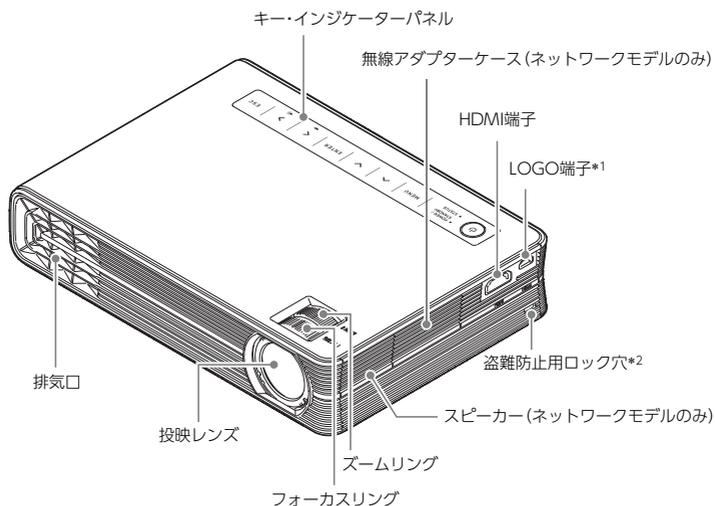
- プロジェクター本体
- 電源コード (ACコード)
- ACアダプター
- 無線アダプターYW-41 (CX-F1のみ)
- 「ご使用前にお読みください」
- 「無線アダプター取り付け説明書」 (CX-F1のみ)
- 「取扱説明書について」
- 保証書

投映までの操作の流れ

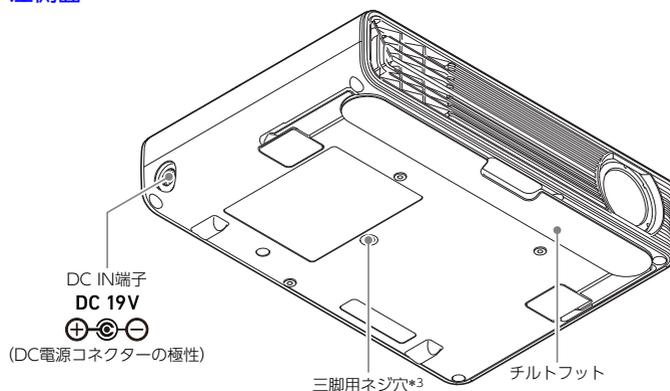
ここでは例として、本機とパソコンをHDMI 接続して、本機から投映を開始するまでの操作の流れを説明します。

- 1. 周囲に十分な余裕がある、しっかりした机や台の上などに、本機を設置する。**
 - ☞ 「安全上のご注意」 (6ページ)、 「使用上のご注意」 (15ページ)
 - ☞ 「机上や床への設置について」 (33ページ)、 「設置場所に関するご注意」 (35ページ)
- 2. 本機に電源を接続する。**
 - ☞ 「電源の準備」 (26ページ)
- 3. パソコンを起動し、本機とパソコンをHDMIケーブルで接続する。**
 - ☞ 「HDMI接続」 (35ページ)
 - 本機の電源が自動的に入り、パソコン画面が本機から投映されます。
 - はじめて本機の電源を入れたときは、投映画面の中央に「言語初期設定」画面が表示されますので、言語を選択してください。
- 4. 本機の設置角度を調節する。**
 - ☞ 「設置角度の調節」 (34ページ)
- 5. ズームリング (24ページ) を回して、投映サイズを調節する。**
- 6. フォーカスリング (24ページ) を回して、焦点を合わせる。**
- 7. 台形補正や、投映輝度の調節を行う。**
 - ☞ 「投映画面の台形歪みを補正する (縦台形補正・横台形補正)」 (42ページ)
 - ☞ 「投映輝度を調節する (ライトコントロール)」 (42ページ)
- 8. パソコンを操作して、プレゼンテーション資料などを順次、投映する。**
- 9. 投映を終了するには、[⏻] キーを押して電源を切る。**

各部の名称



底面/左側面



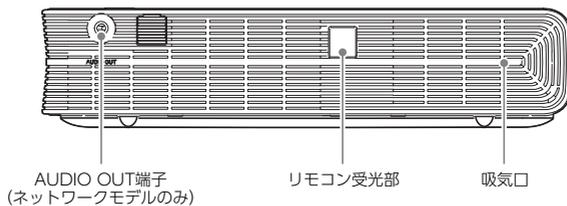
*1 一部のモデルには、LOGO端子カバーが装着されています。LOGO端子を使用する際は、LOGO端子カバーを取り外してご使用ください。使用後は向きに注意してLOGO端子に再装着してください。



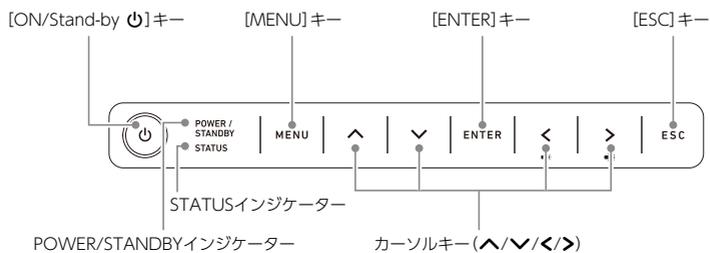
*2 盗難防止用ロック穴は盗難防止用のチェーン等を取り付けるためのものです。ケンジントンロックのホームページ(<https://www.kensington.com/>)もご覧ください。

*3 1/4-20 UNC ネジに対応しています。三脚に取り付ける際は、下記の点にご注意ください。

- 高さ4mm~5.5mm以下のネジが取り付け可能です。5.5mmを超えると本機を傷つける恐れがあります。
- 三脚は強度の十分あるものをご使用ください。強度不足の場合、倒れて事故やけがにつながる恐れがあります。
- 三脚を取り付けたまま移動しないでください。事故やけがにつながる恐れがあります。
- 三脚は、本機のチルトフットを収納した状態で取り付けてください。開いた状態のチルトフットが三脚に接触すると、チルトフットが破損する恐れがあります。



操作パネルとインジケータ

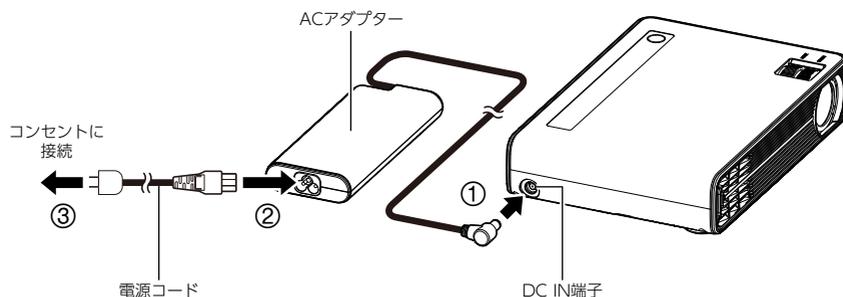


電源の準備

電源として、本機は付属のACアダプター (AD-1979PL) または別売品のバッテリー (YA-B10) を使用します。

ACアダプターを使う

付属のACアダプターで本機を動作させるには、下図のとおり接続します。必ず①、②、③の順に接続してください。



重要

- ACアダプターをコンセントに接続すると熱を持ちますので、ご注意ください。ACアダプターを使っていないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。
- ACアダプターと本機を重ねた状態で使用しないでください。ACアダプターおよび本機の温度が上昇し、故障の原因となります。

バッテリーを使う

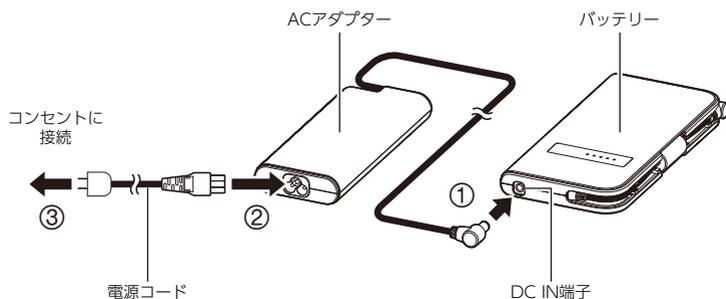
別売品のバッテリー (YA-B10) を使って本機を動作させるには、あらかじめバッテリーを充電する必要があります。初めてご使用になる場合、または長時間使用しなかった後でご使用になる場合は、ご使用前に必ず満充電になるまで充電してください。

重要

- バッテリーの使用後は、必ず本機からバッテリーのプラグを抜き、ケーブルとプラグをバッテリー側面に収納してください。
- バッテリーと本機を重ねた状態で使用しないでください。バッテリーおよび本機の温度が上昇し、故障の原因となります。
- 頻繁に充電を繰り返すと、寿命が短くなります。なるべく残量が少なくなってから、充電してください。

バッテリーを充電する

バッテリーを充電するには、付属のACアダプターとバッテリーを、下図のとおりに接続します。必ず①、②、③の順に接続してください。



重要

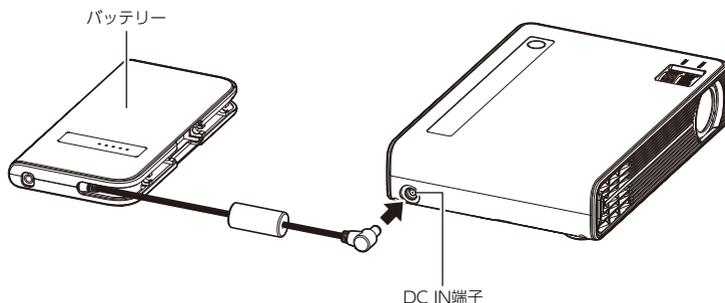
- ACアダプターとバッテリーを重ねた状態で使用しないでください。ACアダプターおよびバッテリーの温度が上昇し、故障の原因となります。

メモ

- バッテリーの充電所要時間については、「バッテリー仕様 (YA-B10、別売品) 」(72ページ) を参照してください。
- 現在の充電量は、バッテリーのインジケーターで確認できます。詳しくは、「バッテリー残量表示」(29ページ) を参照してください。

バッテリーを本機に接続する

バッテリーで本機を動作させるには、充電済みのバッテリーと本機を、下図のとおりに接続します。

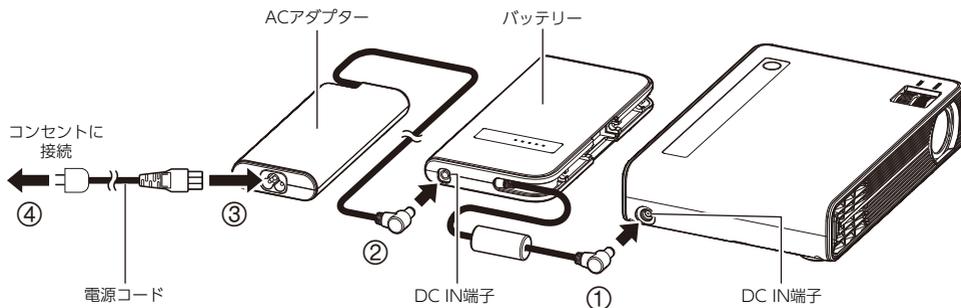


メモ

- バッテリーによる本機の動作可能時間については、「仕様」(71ページ)を参照してください。
- 現在の充電量は、バッテリーのインジケーターで確認できます。詳しくは、「バッテリー残量表示」(29ページ)を参照してください。

バッテリーを本機に接続したまま充電する

下図のように接続すると、本機をACアダプターで動作させながら、同時にACアダプターでバッテリーを充電することができます。必ず①、②、③、④の順に接続してください。



重要

- ACアダプター、バッテリー、および本機を重ねた状態で使用しないでください。ACアダプター、バッテリー、および本機の温度が上昇し、故障の原因となります。

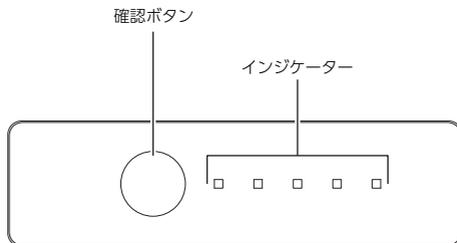


メモ

- 現在の充電量は、バッテリーのインジケーターで確認できます。詳しくは、「バッテリー残量表示」(29ページ)を参照してください。

バッテリー残量表示

バッテリーのインジケータで、バッテリーの残量を確認できます。残量を確認したいときは、確認ボタンを押します。



充電中のインジケータ表示

100 - 81%	■ ■ ■ ■ ■
80 - 61%	■ ■ ■ ■ □
60 - 41%	■ ■ ■ □ □
40 - 21%	■ ■ □ □ □
20 - 0%	■ □ □ □ □

■ :点灯 □ :点滅 □ :消灯

- バッテリーの確認ボタンを押すと、現在のバッテリー残量をインジケータの点灯数で確認できます。満充電になるまで、いずれか1つのインジケータが点滅します。
- 満充電の場合、バッテリーの確認ボタンを押すと、すべてのインジケータが数秒間点灯します。

重要

- バッテリーの充電中に周囲の温度が推奨範囲(10℃～30℃)から外れると、充電が中止されることがあります。このとき、バッテリーのすべてのインジケータがゆっくり点滅します。このような場合はバッテリーからACアダプターを取り外し、周囲の温度が10℃～30℃の環境でしばらく放置したあと、同じ温度範囲の環境で充電を再開してください。

プロジェクターへの給電中のインジケータ表示

100 - 81%	
80 - 61%	
60 - 41%	
40 - 21%	
20 - 11%	
10%以下	

 :点灯  :消灯

- バッテリーの確認ボタンを押すと、現在のバッテリー残量をインジケータの点灯数で確認できます。



メモ

- バッテリーをACアダプターやプロジェクターに接続していない場合でも、バッテリーの確認ボタンを押すと、現在のバッテリー残量をインジケータの点灯数で確認できます。点灯数は、上記「プロジェクターへの給電中のインジケータ表示」の場合と同じです。
- バッテリー残量は、投映画面によく使う機能メニューを表示して、確認することもできます。「電源の接続状態とバッテリー残量表示」(41ページ)を参照してください。

バッテリー残量警告

本機がバッテリーで動作しているときにバッテリー残量が少なくなると、投映画面に下記のような警告アイコンが表示されます。バッテリー残量警告が表示されるまでの時間は本機の設定状態、特にライトコントロール(42ページ)の設定によります。

① 残量が20%以下になったとき	② 残量が10%以下になったとき
 (オレンジ色)	 (赤色)

アイコン①が表示されたときは

バッテリー残量がなくなるまでには少し時間がありますが、なるべく早めにACアダプターを接続し、バッテリーを充電してください。接続については、「バッテリーを本機に接続したまま充電する」(28ページ)を参照してください。

そのまま本機の使用を続けて、バッテリー残量が10%以下になると、アイコン②の表示に変わります。



メモ

- すぐにバッテリーを充電できない場合、バッテリーを少しでも長持ちさせるには、入力信号の投映中に[◀]キーを押してライトコントロール(42ページ)の設定値を「1」にしてください。なお入力信号が何も無い場合、この操作はできません。

アイコン②が表示されたときは

そのまま本機の使用を続けると、ごく短時間で本機の電源は切れます。

アイコン②が表示されたら、すぐにバッテリーにACアダプターを接続し、充電してください。接続については、「バッテリーを本機に接続したまま充電する」(28ページ)を参照してください。

バッテリー使用時のご注意

本機をバッテリーで動作させる場合は、次のことにご注意ください。

- 本機から放映中で本機への入力信号が何もない場合、自動的に低電力放映となり、ライトコントロール(42ページ)が1(最も暗い設定)に切り替わります。バッテリー消費を抑えるため、入力信号が何もない間は、ライトコントロールの設定は1に固定され、変更できません。信号が入力されると現在の設定に従った明るさになり、設定の変更も可能になります。
- オートパワーオフ(32ページ)の設定にかかわらず、本機に対するキー操作も入力信号もない状態が約5分間続くと、電源は自動的に切れます。

電源を入れる

1. 「電源の準備」(26ページ)に従って、本機を電源に接続する。

2. 電源を入れるには、[⏻]キーを押す。

- 電源が入ると、POWER/STANDBYインジケーター(緑色)が数秒間点滅した後点灯に変わり、放映が開始されます。

外部機器とのHDMI接続によるパワーオンについて

電源が入っている外部機器(パソコンやビデオ機器など)と本機をHDMIケーブルで接続すると、本機はHDMI信号を認識し、自動的に電源が入ります。HDMI接続後に外部機器の電源を入れた場合は、本機が外部機器からのHDMI信号を認識した時点で電源が入ります。

HDMI接続について詳しくは、「HDMI接続」(35ページ)を参照してください。

ダイレクトパワーオンについて

ダイレクトパワーオンは、本機に接続されたACアダプターをコンセントにつなぐだけで、自動的に電源が入る機能です。設定については、「機器設定1→ダイレクトパワーオン」(51ページ)を参照してください。

なおダイレクトパワーオンは、ACアダプターで本機を動作させる場合のみ可能です。バッテリーで動作させる場合は、設定にかかわらず無効です。

電源を切る

1. 電源を切るには、[⏻]キーを押す。

- 本機がACアダプターで動作している場合は、POWER/STANDBYインジケーター(赤色)が数秒間点滅した後、点灯に変わります。
- 本機がバッテリーで動作している場合は、POWER/STANDBYインジケーター(赤色)が数秒間点滅した後、消灯します。

2. ACアダプターを本機から取り外し、電源コードをコンセントから抜く。 (または、バッテリーを本機から取り外す。)



メモ

- 本機がACアダプターで動作していた場合、ACアダプターを本機から取り外すか、電源コードをコンセントから抜いた後も、インジケーターが点灯したままになっていることがあります。これは故障ではありません。

オートパワーオフについて

本機に対するキー操作も入力信号もない状態が約10分続くと、オートパワーオフ機能によって、本機の電源は自動的に切れます(初期設定時)。「機器設定1→オートパワーオフ」(51ページ)を使って、自動的に電源が切れるまでの時間を変更したり、電源が自動的にには切れないように設定したりできます。



メモ

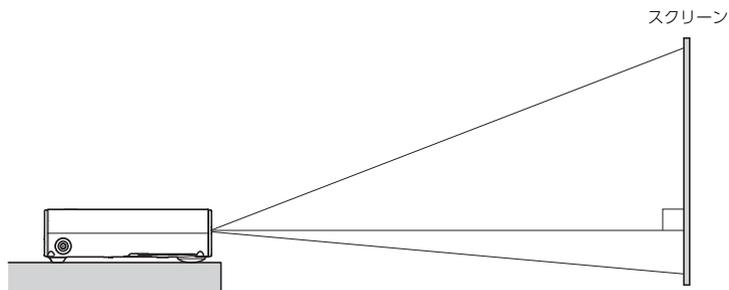
- 本機がバッテリーで動作している場合、オートパワーオフの設定にかかわらず、本機に対するキー操作も入力信号もない状態が約5分続くと、電源は自動的に切れます。

オートプロジェクションオフについて

オートプロジェクションオフは、本機への入力信号が途切れると、自動的に投映ライトを消灯する機能です。ライト消灯から20分以内(バッテリー接続時は5分以内)に再び本機への入力信号があれば、自動的に投映が再開されます。時間内に入力信号がない場合は、自動的に電源が切れます。複数のパソコンを代わる代わる、本機に接続して使う場合などに便利です。詳しくは、「オートプロジェクションオフを利用する」(54ページ)を参照してください。

机上や床への設置について

周囲に十分な余裕がある、しっかりした机や台の上などに設置してください。本機の側面や背面に、吸気／排気のための十分なスペースが確保されているか、ご確認ください。投映するスクリーンに対して下図のように設置すると、最適な映像を得ることができます。

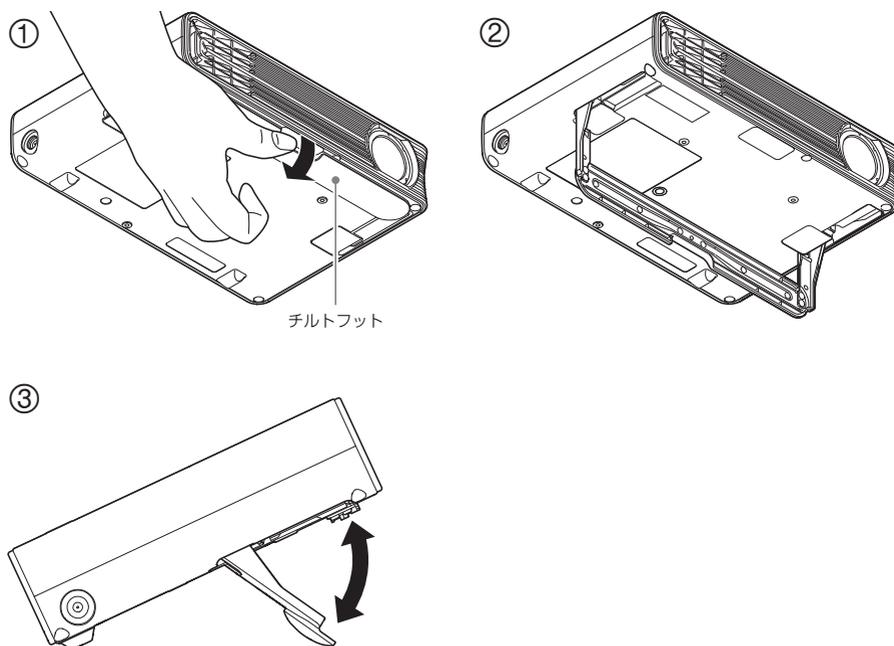


テストパターンについて

設置の際にテストパターンを投映すると、投映サイズや本機の傾きなどの確認がしやすくなります。詳しくは「テストパターンを投映する」(47ページ)を参照してください。

設置角度の調節

投映スクリーン(ホワイトボードなど)が本機よりも高い位置にある場合は、底面のチルトフットを使って角度を調整します。



1. チルトフット中央のくぼみ部分に指をかけて、チルトフットを開く(上図①)。

- チルトフットの操作にあたっては、次のことにご注意ください。



指のケガに
注意

- ー チルトフットを開閉する際は、本体とチルトフットの間に指を挟まないようにご注意ください。

- ー チルトフットを開閉する際は、中央のくぼみ部分以外を操作しないでください。
- ー チルトフットは、上図②の位置まで開くと本体に当たり、それ以上開かなくなります。チルトフットや本機が破損する恐れがありますので、無理に開かないでください。

2. 任意の位置でチルトフットを止めてから、本機を平らな面に着座させる(上図③)。

3. 投映スクリーンを確認しながら、チルトフットの角度を調整する。



重要

- 持ち運びの際は、チルトフットを閉じてください。
- チルトフットを持ち運び用の取っ手として使用することはおやめください。チルトフットや本機の破損、および落下による事故の原因となります。
- チルトフットを開ききった状態で、それ以上、力を加えないでください。チルトフットや本機が破損する恐れがあります。

設置場所に関するご注意

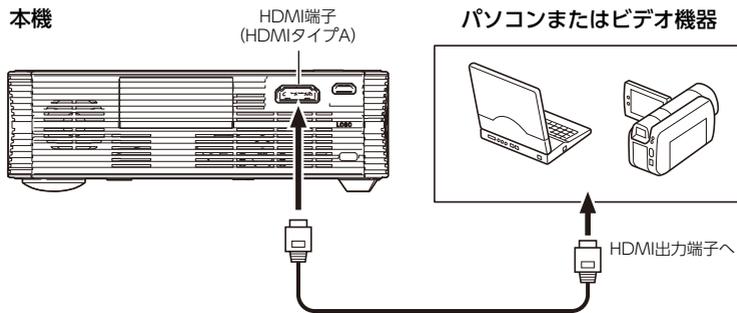
- いつでも電源プラグが抜けるよう、電源プラグに手が届く場所でお使いください。
- 空調の風向きにより、レンズ付近に本機の排気熱が当たると映画面面に揺らぎが発生することがあります。その場合、空調の風向きや本機の設置位置を変更してご使用ください。
- 風通しの悪い場所や密閉された空間に設置しないよう、ご注意ください。
 - － バッテリー接続時は、プロジェクターの排気口がある側への設置を避け、プロジェクターから5cm以上離して設置してください。

外部機器との接続

投映を開始する前に、本機をパソコンやビデオ機器、その他の外部機器と接続します。接続用のケーブルをご用意いただく際は、本機側の端子形状と、相手機器側の端子形状に合うものをお選びください。

HDMI接続

本機とパソコンまたはビデオ機器を、下図のように接続します。



CX-E1

- パソコンまたはビデオ機器からの映像入力を、プロジェクターから投射します。
- 音声を出力する機能はありません。必要な場合は、パソコンまたはビデオ機器側のスピーカーから音声を出力してください。

CX-F1 (ネットワークモデル)

- パソコンまたはビデオ機器からの映像入力を本機から投射し、音声入力をプロジェクターのスピーカーから出力します。
- 音声出力は、スピーカーまたはAUDIO OUT 端子から選ぶことができます。設定については、「機器設定2→音声出力」(51ページ)を参照してください。

(ネットワークモデルのみ)

パソコンやスマートデバイスから、本機に無線LANで接続することが可能です。無線LAN接続の操作や各種設定について詳しくは、別冊の「ネットワーク機能ガイド」を参照してください。

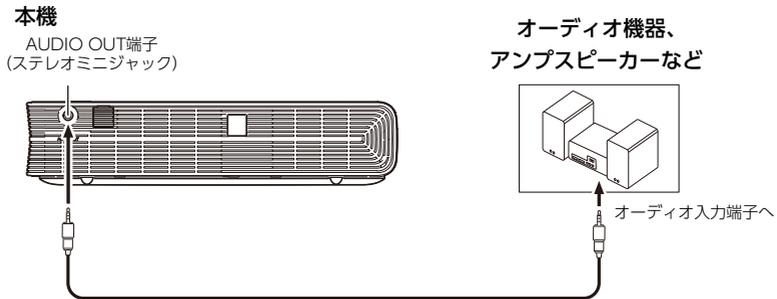
無線アダプターの取り付け

無線LAN機能を利用するためには、付属の無線アダプター (YW-41) を本機に取り付ける必要があります。取り付け方については、パッケージに同梱されている説明書を参照してください。

本機から外部機器への音声出力

(ネットワークモデルのみ)

本機とオーディオ機器やアンプスピーカーなどを下図のように接続することで、本機への音声入力を外部に出力することができます。

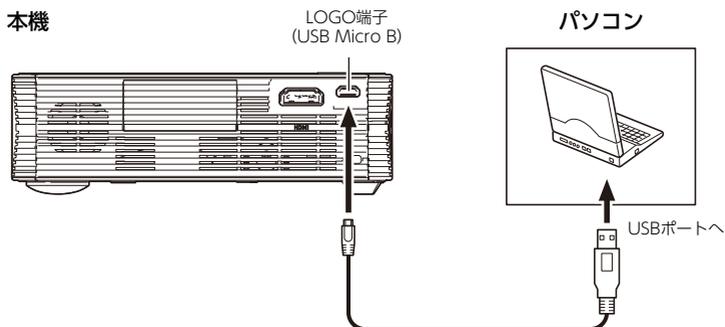


メモ

- 本機の初期設定では、音声は内蔵スピーカーから出力されるように設定されています。外部機器から音声出力するには、設定メニュー「機器設定2→音声出力」(51ページ)を「ライン」に切り替えてください。

LOGO端子について(ファームウェア更新、ユーザーロゴ転送)

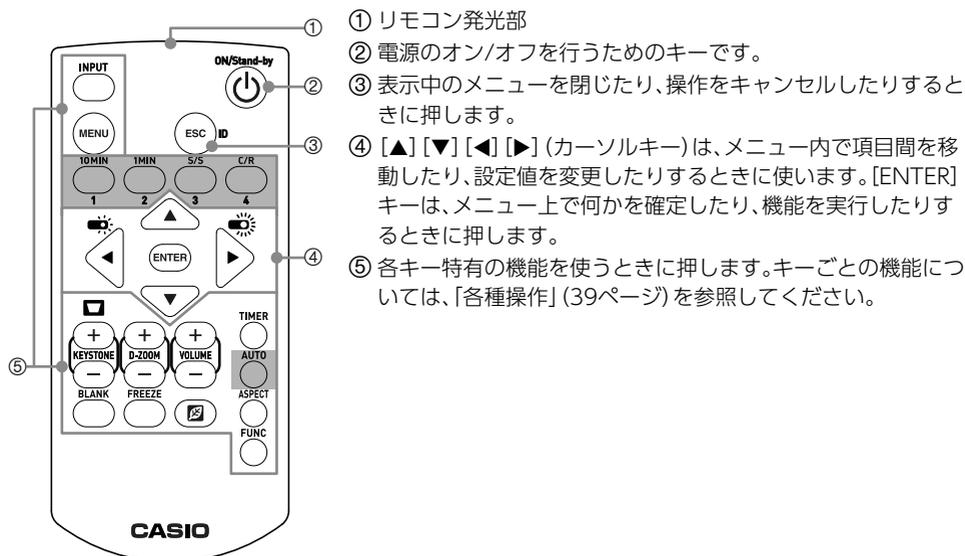
本機のLOGO端子に接続したパソコンからの操作で、本機のファームウェア(フラッシュROMに搭載されたソフトウェア)の更新が可能です。また、パソコンから本機にユーザーロゴ用の画像を転送することができます。



接続後の操作については、弊社ウェブサイトで公開されている下記ドキュメントを参照してください。
ファームウェアの更新:「プロジェクターファームウェア更新ガイド」
ユーザーロゴの転送:「プロジェクターユーザーロゴ転送ガイド」

リモコン(別売品)について

本機は別売品のワイヤレスリモコン(YT-161)で操作することもできます。リモコン発光部をプロジェクターのリモコン受光部に向けて、リモコンのキーを操作してください。プロジェクターのリモコン受光部から約5m以内の範囲で操作できます。



重要

- 電池が消耗しますので、保管時はキーが押されないようにご注意ください。

メモ

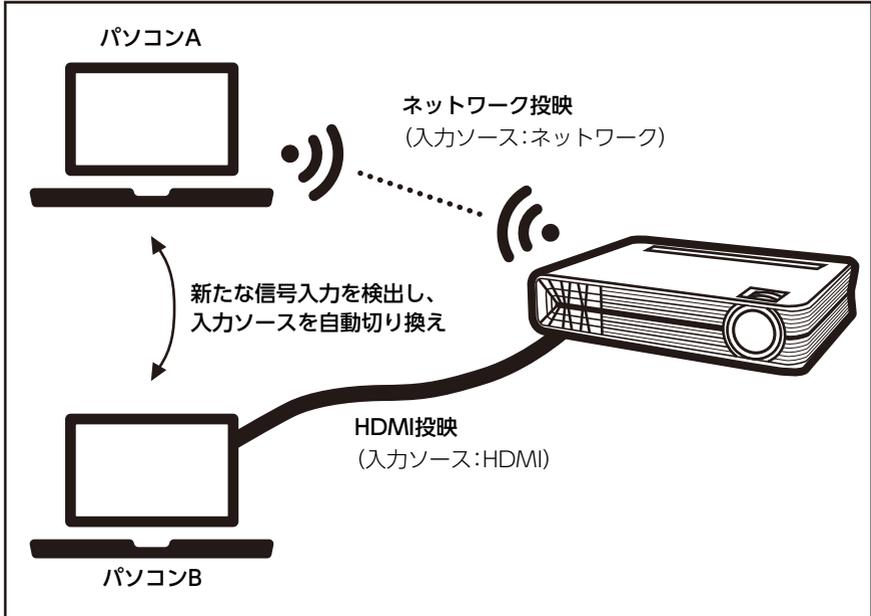
- 機種に応じて、リモコンの下記キーは無効です。
CX-E1: グレーで網掛けされているキー、および [INPUT]、[VOLUME +]、[VOLUME -] の各キー
CX-F1: グレーで網掛けされているキー
- 改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

各種操作

入カソースの自動切替

(ネットワークモデルのみ)

本機は入カソース(HDMI 入力またはネットワーク入力)からの信号を検出すると、自動的に入カソースを切り替えて、投映を開始します。本機のキー操作で入カソースを切り替える必要はありません。



操作例 (上図参照)



メモ

- 本機、パソコンA、パソコンBすべて電源が入っている状態から、操作してください。
- 下記操作例では、パソコンから本機にネットワーク投映するための専用アプリ「C-Connection」を使っています。ネットワーク投映についての詳細は、別冊の「ネットワーク機能ガイド」を参照してください。

1. パソコンBと本機をHDMIケーブルで接続する。

- 本機はパソコンBからのHDMI入力を検出し、入カソースを自動的に「HDMI」に切り替えます。パソコンB画面のHDMI投映が開始されます。

2. 本機とネットワーク接続済みのパソコンAでC-Connectionを起動し、▶(投映開始)をクリックする。

- 本機はパソコンAからのネットワーク入力を検出し、入カソースを自動的に「ネットワーク」に切り替えます*1。パソコンA画面のネットワーク投映が開始されます。
- このときパソコンBと本機はHDMI 接続されたままなので、入カソースを「HDMI」に切り替えれば、再びパソコンB画面のHDMI 投映が開始されます。手順3はその操作です。

3. 入力ソースを「ネットワーク」から「HDMI」に切り替えてみる。

1. [MENU] キーを押して、よく使う機能メニューを表示する。
2. [▲] または [▼] キーを使って「入力切替」を選択する。
3. [ENTER] または [▶] キーを押す。
 - ・ 入力ソースが「ネットワーク」から「HDMI」に切り替わり、パソコンB 画面のHDMI 投映が開始されます。
 - ・ 手動による入力切り替えについて詳しくは、「入力ソースを切り替える」(44ページ)を参照してください。

4. パソコンのC-Connectionで■(投映終了)をクリックしてから、▶(投映開始)をクリックする。

- ネットワーク入力が一度途切れてから、入力が再開されたので、本機はその入力を検出し、再び入力ソースを自動的に「ネットワーク」に切り替えます*1。パソコンA画面のネットワーク投映が再開されます。

*1 本機は一度に最大4台の端末(パソコンやスマートデバイス)から、ネットワーク投映することができます。ネットワーク投映している端末が1台もないときに、ネットワーク投映を開始した場合に限り、入力ソースは自動的に「ネットワーク」に切り替わります。すでにネットワーク投映している端末があり、2台目以降の端末から投映を開始した場合は、入力ソースは自動では切り替わりません。

よく使う機能メニュー

よく使う機能メニューは、本機の調整や設定をしたり、特定の機能を利用したりするための入り口です。[MENU] キー(または[◀]、[▶])を押すと、投映画面に表示されます。

よく使う機能メニューには、次のメニュー項目が含まれます。

メニュー項目	参照先
縦台形補正	[投映画面の台形歪みを補正する(縦台形補正・横台形補正)](42ページ)
横台形補正	
ライトコントロール	[投映輝度を調節する(ライトコントロール)](42ページ)
音量調整(ネットワークモデルのみ)	[音量を調整する](44ページ)
入力切替(ネットワークモデルのみ)	[入力ソースを切り替える](44ページ)
設定メニュー	[設定メニューを使う](45ページ)

電源の接続状態とバッテリー残量表示

よく使う機能メニューの右下には、現在の電源の接続状態またはバッテリー残量が、アイコンで表示されます。



アイコン	電源の状態	
	ACアダプターで本機を給電しています*1。	
	ACアダプターで本機を給電しており、同時にACアダプターでバッテリーを充電しています*2。	
	残量 100 - 81%	バッテリーで本機を給電しています*3。
	残量 80 - 61%	
	残量 60 - 41%	
	残量 40 - 21%	
	残量 20 - 11%	
	残量 10%以下	

*1 「ACアダプターを使う」(26ページ)の接続状態。

*2 「バッテリーを本機に接続したまま充電する」(28ページ)の接続状態。

*3 「バッテリーを本機に接続する」(28ページ)の接続状態。



メモ

- バッテリーは別売品です。「バッテリーを使う」(27ページ)を参照してください。

投映画面の台形歪みを補正する(縦台形補正・横台形補正)

本機の設置状態によって生じる、縦方向または横方向の台形歪みを補正します。

- 調整は、縦方向、横方向ともに $\pm 30^\circ$ の範囲内で実施できます。
 - 本機は縦方向の台形歪みを自動的に補正します(自動台形補正*1)。ただし、本機と投映スクリーンの位置関係によっては、自動台形補正だけでは正しく補正されないことがあります。下記手順2(縦台形補正)の操作は、投映画面を確認しながら、必要に応じて実施してください。
- *1 「機器設定1→自動台形補正」(50ページ)が「オン」の場合。

1. [MENU]キーを押して、よく使う機能メニューを表示する。
 - このとき、「縦台形補正」が選択されます。
2. [◀]または[▶]キーを使って、縦台形補正の設定を変更する。
3. [▼]キーを押して、「横台形補正」を選択する。
4. [◀]または[▶]キーを使って、横台形補正の設定を変更する。
5. 設定を終了するには、[MENU]キーを押す。



メモ

- リモコンでは、次の操作も可能です。
 - － 手順1の代わりに、[KEystone +]または[KEystone -]キーを押す。
 - － 手順2、手順4で、[KEystone +]または[KEystone -]キーを使って設定を変更する。

投映輝度を調節する(ライトコントロール)

ライトコントロールは、本機のライト出力(光源ライトの輝度)を調節する機能です。



重要

- 「ブライต์モード」が「オン」に設定されている場合、ライトコントロールの設定は変更できません。「ブライต์モード(最大輝度での使用)について」(43ページ)の操作で、「ブライต์モード」を「オフ」にしてください。(「ブライต์モード」の初期設定は「オフ」です。)

1. [◀]または[▶]キーを押す。

- よく使う機能メニューが表示され、「ライトコントロール」が選択されます。

2. [◀]または[▶]キーを使ってライトコントロールの設定を変更する。

- 電源との接続状態に応じて、ライトコントロールの設定値は、下表の範囲で変更できます。設定値が小さいほど、輝度が低くなります。

接続状態	設定値
	1~7
	1~5
	

3. 設定を終了するには、[MENU]キーを押す。



メモ

- リモコンでは、次の操作も可能です。
 - － 手順1の代わりに、[F5]キーを押す。

バッテリー動作時のご注意

本機がバッテリーで動作しているときは、次の制約があります。

- 本機への入力信号が何もないうち、ライトコントロールの設定は変更できません。

ブライトモード(最大輝度での使用)について

投映ライトを最大輝度で使用したい場合は、下記の操作で設定メニューの「ブライトモード」を「オン」に切り替えます。「オン」への切り替えは、ACアダプターで動作している場合のみ可能です。

1. [MENU]キーを押して、よく使う機能メニューを表示する。

2. [▲]キーを押して「設定メニュー」を選択し、[ENTER]キーを押す。

- 設定メニューが表示されます。

3. [▲]または[▼]キーを使って「機器設定1」を選択し、[ENTER]キーを押す。

4. [▲]または[▼]キーを使って「ブライトモード」を選択する。

5. [◀]キーを使って「オン」を選択する。

- 「オン」に切り替えると、ライトコントロールの設定は変更できなくなります。ライトコントロールの設定を変更したい場合は「オフ」にしてください。

6. 設定を終了するには、[MENU]キーを押す。

音量を調整する



(ネットワークモデルのみ)

本機のスピーカーからの出力音量を調整します。

1. [MENU]キーを押して、よく使う機能メニューを表示する。
2. [▲]または[▼]キーを使って「音量調整」を選択する。
3. [◀]または[▶]キーを使って、音量を調整する。
 - 0(無音)～30(最大音量)の間で調整可能です。
4. 設定を終了するには、[MENU]キーを押す。



メモ

- リモコンでは、次の操作も可能です。
 - － 手順1～2の代わりに、[VOLUME +]または[VOLUME -]キーを押す。
よく使う機能メニューが表示され、「音量調整」が選択されます。
 - － 手順3で、[VOLUME +]または[VOLUME -]キーを使って音量を調整する。

入力ソースを切り替える



(ネットワークモデルのみ)

現在の入力ソースが「HDMI」の場合は「ネットワーク」に、「ネットワーク」の場合は「HDMI」に切り替えます。

1. [MENU]キーを押して、よく使う機能メニューを表示する。
2. [▲]または[▼]キーを使って「入力切替」を選択する。
3. [ENTER]または[▶]キーを押す。
 - 入力ソースが切り替わり、メニューが閉じます。



メモ

- リモコンでは、次の操作も可能です。
 - － 手順1～2の代わりに、[INPUT]キーを押す。
よく使う機能メニューが表示され、「入力切替」が選択されます。

設定メニューを使う

設定メニューを使って、投映画質(明るさやコントラストなど)を調整したり、本機の動作設定を変えたりすることができます。

設定メニューを表示する

1. [MENU]キーを押して、よく使う機能メニューを表示する。
2. [▲]キーを押して「設定メニュー」を選択し、[ENTER]キーを押す。
 - 設定メニューが表示されます。

設定メニューを使った各種操作

アスペクト比(投映映像の縦横比)を切り替える

初期設定では、本機は入力信号のアスペクト比を維持して投映します。必要に応じて、アスペクト比の設定を変更することができます。

1. 設定メニューを表示する(45ページ)。
2. [▲]または[▼]キーを使って「画面設定」を選択し、[ENTER]キーを押す。
3. [▲]または[▼]キーを使って「アスペクト比」を選択する。
4. [◀]または[▶]キーを使ってアスペクト比の設定を変更する。
 - 入力ソースに応じて、次の設定が可能です。

入力ソース	設定
HDMI (PC) またはネットワーク	標準、フル、16:9、4:3、リアル
HDMI (DTV)	標準、16:9、16:10、4:3、レターボックス

各設定の意味は、「アスペクト比の各設定について」(46ページ)を参照してください。

5. 設定を終了するには、[MENU]キーを押す。



メモ

- リモコンでは[ASPECT]キーを押すたびに、アスペクト比の設定が切り替わります。キーを押すたびに、切り替え後のアスペクト比設定が、投映画面の右上に表示されます。



重要

- 営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、本機能により画面の拡大や縮小を行うと、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますのでご注意ください。

アスペクト比の各設定について

標準	入力信号のアスペクト比を維持した上で、本機で投映可能な最大サイズで投映します。
フル	本機で投映可能な最大サイズに、入力信号を拡大/縮小して投映します。
16:9	縦横比16:9(映画やハイビジョンなどの画面比率)で表示します。入力信号が16:9を4:3にスクイーズ(圧縮)したビデオ映像である場合に選択すると、縦横比の正しい映像が表示されます。
16:10	縦横比16:10で表示します。縦横比16:10のスクリーンに合わせて投映する際にご利用ください。
4:3	入力信号のアスペクト比にかかわらず、4:3のアスペクト比に強制的にリサイズして投映します。
リアル	入カソースの1ドットと本機の出力画素の1ドットが一致するように投映します。入力信号の解像度が本機の出力解像度を超える場合、超過部分は切り取られます。
レターボックス	入力信号のアスペクト比を維持したまま、横方向のサイズが1280ドットになるようにリサイズし、縦方向はリサイズ後の中央部の800ドット分を投映します。

アスペクト比設定に応じた投映画面の表示状態について詳しくは、「アスペクト比設定と投映画面について」(69ページ)を参照してください。

映像に適した色調(カラーモード)を選ぶ

投映する内容や環境に応じて、複数のカラーモードの中から適したものを選ぶことができます。



重要

- 「ブライトモード」(43ページ)が「オン」に設定されているときは、カラーモードの選択は無効となります。

1. 設定メニューを表示する(45ページ)。
2. [▲]または[▼]キーを使って「映像調整1」を選択し、[ENTER]キーを押す。
3. [▲]または[▼]キーを使って「カラーモード」を選択し、[ENTER]キーを押す。
4. [▲]または[▼]キーを使って希望するカラーモードを下記から選択し、[ENTER]キーを押す。

スタンダード： 色表現を重視したプレゼンテーション用の設定です。

グラフィックス： 写真等が自然に見えるような設定です。

シアター： 映画の暗い部分をすっきり見せる設定です。

ナチュラル： 自然画や人物画の投映に適している設定です。

5. 設定を終了するには、[MENU]キーを押す。



メモ

- リモコンでは、次の操作も可能です。
 - － [FUNC]キーを押すと表示されるメニューで、上記手順3以降のとおり操作する。

左右反転して投映する(ミラーモード)

本機をミラーモードに切り替えることで、投映中の映像を左右反転させることができます。

1. 設定メニューを表示する(45ページ)。
2. [▲]または[▼]キーを使って「画面設定」を選択し、[ENTER]キーを押す。
3. [▲]または[▼]キーを使って「ミラー」を選択し、[ENTER]キーを押す。
 - メニューが閉じて、映像が左右反転します。
 - ミラーモード中は、ミラーモードを表すアイコンが、投映画面の右上に表示されます。
4. ミラーモードを解除するには、[ESC]キーを押す。
 - ミラーモード中に[⏻]、[MENU]、[◀]、または[▶]キーを押すと、押したキーの機能が働き、ミラーモードは解除されます。



メモ

- リモコンの下記キーの機能は、ミラーモードを解除せずに実行することができます。
全モデル共通: [BLANK]、[FREEZE]、[D-ZOOM +]、[D-ZOOM -]
ネットワークモデルのみ: [VOLUME+]、[VOLUME-]
- ミラーモード中にリモコンの下記キーを押すと、押したキーの機能が働き、ミラーモードは解除されます。
全モデル共通: [ESC]、[⏻]、[MENU]、[◀]、[▶]、[KEystone +]、
[KEystone -]、[📷]、[TIMER]、[ASPECT]、[FUNC]
ネットワークモデルのみ: [INPUT]
- 「バッテリー残量警告」(30ページ)が表示されると、ミラーモードは強制的に解除されます。

テストパターンを投映する

「無信号時画面」(50ページ)や「ブランク時画面」(50ページ)として、本機にテストパターンを投映させることが可能です。投映画面の各種調整(位置、サイズ、台形補正、フォーカス、アスペクト比設定など)の際にご利用ください。テストパターンは、本機を壁に設置した後の微調整用としても便利です。



重要

- 本機がACアダプターで動作している場合、テストパターンの投映中は、オートパワーオフ(32ページ)、オートプロジェクションオフ(54ページ)は無効となります。
- 本機にバッテリーが接続されている場合、「無信号時画面」や「ブランク時画面」の設定にかかわらず、テストパターンは投映されません。
- 本機にバッテリーが接続されている場合、「無信号時画面」や「ブランク時画面」の設定は変更できません。これらの設定を変更する際は、本機にACアダプターだけを接続してください。

無信号時にテストパターンを投映するには

1. 設定メニューを表示する(45ページ)。
2. [▲]または[▼]キーを使って「画面設定」を選択し、[ENTER]キーを押す。
3. [▲]または[▼]キーを使って「無信号時画面」を選択する。

4. [◀]または[▶]キーを使って「テストパターン」を選択する。

5. 設定を終了するには、[MENU]キーを押す。

- この設定では、本機への入力信号が何も無いときに、テストパターンが投映されます。

ブランク時にテストパターンを投映するには



メモ

- 「ブランク」は、リモコン(別売品)を使うことで利用できる機能です。ブランクについて詳しくは、「リモコン(別売品)で利用できる機能」(53ページ)を参照してください。

1. 設定メニューを表示する(45ページ)。

2. [▲]または[▼]キーを使って「画面設定」を選択し、[ENTER]キーを押す。

3. [▲]または[▼]キーを使って「ブランク時画面」を選択する。

4. [◀]または[▶]キーを使って「テストパターン」を選択する。

5. 設定を終了するには、[MENU]キーを押す。

6. テストパターンを投映するには、リモコンの[BLANK]キーを押す。

操作パネルロック

プロジェクター本体の[⊙]キーを除くすべてのキー操作を無効にする(ロックする)機能です。プロジェクターはリモコン(別売品)からの操作だけを受け付けるので、本体キーに対する誤操作などを防止できます。

操作パネルロックを有効(オン)にするには

1. 設定メニューを表示する(45ページ)。

2. [▲]または[▼]キーを使って「機器設定2」を選択し、[ENTER]キーを押す。

3. [▲]または[▼]キーを使って「操作パネルロック」を選択する。

4. [◀]キーを押して「オン」を選び、表示される確認ダイアログで[ENTER]キーを押す。

- 「操作パネルロックが設定されています。」というメッセージが表示されます。約5秒後にメッセージが消え、[⊙]キーを除くプロジェクター本体のキーがロックされます。

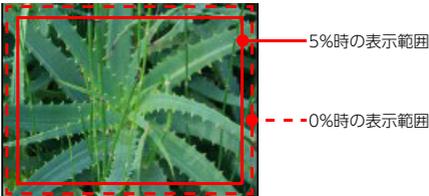
操作パネルロックを解除するには

次のいずれかの操作を行う。

- 投映画面にメニューやダイアログが表示されていないときに、プロジェクター本体キーの[▼]キーを押し続け、「操作パネルのロックが解除されました。」というメッセージが表示されたら離す。
- リモコンを使って解除する場合は、上記の「操作パネルロックを有効(オン)にするには」の手順4で[▶]キーを押して「オフ」を選び、[MENU]キーを押す。

設定メニュー項目一覧

- メニュー項目名の後に (D) のような記載のあるものは、特定の入力ソースの選択時に限り利用可能な項目です。() 内のアルファベットは、そのメニュー項目が利用可能な入力ソースを表します。
H: HDMI (PC)、D: HDMI (DTV)、N: ネットワーク (ネットワークモデルのみ)
- () の記載がないメニュー項目は、どの入力ソースの選択時でも利用可能です。
- **N** が付いているメニュー項目は、ネットワークモデルでのみ有効です。
- アスタリスク (*) が付いている選択肢は、初期設定を表します。

メニュー項目名	できること
映像調整1→明るさ	映像の明るさを調整します。
映像調整1→コントラスト	映像のコントラストの強弱を調整します。
映像調整1→カラーモード	映像のカラーモードを「スタンダード*」、「グラフィックス」、「シアター*」、「ナチュラル」の中から選ぶことができます。
	 メモ <ul style="list-style-type: none"> ● 初期設定は、入力ソースに応じて次のようになります。 HDMI (PC)、ネットワークの場合: スタンダード HDMI (DTV) の場合: シアター
映像調整1→カラーバランス	映像のカラーバランスを、プリセット3種(「暖色系」「標準*」「寒色系」)から選ぶことができます。赤、緑、青のカラー別調整も可能です。
映像調整1→映像調整1の初期化	投映中の入力ソースに対する映像調整1メニュー内の全項目を初期化します。
映像調整2→オーバースキャン (D)	<p>入力ビデオ信号に対するオーバースキャン率を、0%*~5%の間で調整します。プロジェクターの投映画面に表示される入力ソース映像の範囲は、設定値が小さいほど下図のように広くなります。</p>  <p>5%時の表示範囲 0%時の表示範囲</p>
映像調整2→映像調整2の初期化 (D)	投映中の入力ソースに対する映像調整2メニュー内の全項目を初期化します。
音量調整→音量 N	「音量を調整する」(44ページ)を参照してください。
音量調整→音量調整の初期化 N	投映中の入力ソースに対する音量設定を初期化します。
画面設定→縦台形補正	投映画面の縦方向の台形歪みを補正します。
画面設定→横台形補正	投映画面の横方向の台形歪みを補正します。
画面設定→補正の優先	<p>台形補正によって発生することがある映像歪みを低減するか、そのままにするかを選びます。</p> <p>形状*: 台形補正を行ったときの映像の歪みを低減します。この設定では、通常よりも投映範囲がやや狭くなります。</p> <p>サイズ: 通常の投映範囲が維持されますが、台形補正を行ったときに映像の歪みが出る場合があります。</p>
画面設定→アスペクト比	投映画面のアスペクト比の設定を切り替えます。詳しくは「アスペクト比(投映映像の縦横比)を切り替える」(45ページ)を参照してください。
画面設定→投映方法	<p>スクリーンの前面から投映するか、背面から投映するかを設定します。</p> <p>フロント*: スクリーンの正面から投映する場合に選択します。</p> <p>リア: スクリーンの背面から投映する場合に選択します。「フロント」選択時に対して、映像の左右を反転して投映が行われます。</p>

メニュー項目名	できること
画面設定→天吊投映	本機を天地逆さまに壁掛け設置して投映するための設定項目です。 オン: 天地逆さまに壁掛け設置して投映する場合はこちらを選択します。本機の底面側が上になるように、上下左右反転して投映が行われます。 オフ*: 机上に設置して投映する場合はこちらを選択します。本機の上面側が上になるように、投映が行われます。
画面設定→無信号時画面	本機への入力信号がないときの投映画面表示を、「ブルー*」(青画面)、「ブラック」(黒画面)、「ロゴ」(本機に組み込まれたロゴ画像またはユーザーロゴ画像(37ページ))、「テストパターン」から選びます。なお本項目で「テストパターン」を選択し、無信号時にテストパターンが投映されている間は、オートパワーオフ(32ページ)、オートプロジェクションオフ(54ページ)は無効となります。  メモ ● 本機にバッテリーが接続されている場合、「無信号時画面」は設定メニューに表示されません。設定は「ブルー」に固定されます。
画面設定→ブランク時画面	リモコンの[BLANK]キー(53ページ)を押したときの投映画面表示を、「ブルー」(青画面)、「プロジェクションオフ*」(ライト消灯)、「ロゴ」(本機に組み込まれたロゴ画像またはユーザーロゴ画像(37ページ))、「テストパターン」から選びます。  メモ ● 本機にバッテリーが接続されている場合、「ブランク時画面」は設定メニューに表示されません。設定は「プロジェクションオフ」に固定されます。
画面設定→オートプロジェクションオフ	オートプロジェクションオフは、投映中の入力ソース機器からの入力信号が途切れたときに、自動的に投映ライトを消灯する機能です。 有効: オートプロジェクションオフを有効にします。 無効*: オートプロジェクションオフを無効にします。 オートプロジェクションオフの動作について詳しくは、「オートプロジェクションオフを利用する」(54ページ)を参照してください。
画面設定→ミラー	「左右反転して投映する(ミラーモード)」(47ページ)を参照してください。
画面設定→画面設定の初期化	投映中の入力ソースに対する画面設定メニュー内の全項目を初期化します。
入力設定→HDMIイコライザ	本機へのHDMI入力信号に対するイコライザ設定です。通常は「自動*」に設定しますが、HDMI入力信号が投映できない、またはノイズが発生する場合は、1～5の間で設定を変更してください。なお本項目の設定を変更すると、設定メニューは閉じます。
入力設定→HDMI入力レンジ	本機へのHDMI入力信号に対する入力レンジ設定です。HDMI入力信号の映像に黒浮きや黒つぶれ、白飛びといった現象が発生する場合は、設定を変更してください。 自動*: 入力レンジを自動的に判別します。 リミテッド: DVD信号レベルに合わせます。 フル: コンピュータ信号レベルに合わせます。
入力設定→信号名表示	投映画面への信号名表示をするか、しないか指定します。 オン*: 信号名を表示します。 オフ: 信号名を表示しません。
入力設定→入力設定の初期化	投映中の入力ソースに対する入力設定メニュー内の全項目を初期化します。
機器設定1→自動台形補正	本機の設定角度に応じた自動台形補正を行う(オン*)か、行わない(オフ)かを、設定します。  メモ ● 「画面設定→天吊投映」が「オン」の場合、本項目は選択できないと同時に、自動台形補正は常に無効となります。
機器設定1→ライトコントロール	本機のライト出力を調節します。 「投映輝度を調節する(ライトコントロール)」(42ページ)を参照してください。
機器設定1→ブライモード	「ブライモード(最大輝度での使用)」について(43ページ)を参照してください。

メニュー項目名	できること
機器設定1→オートパワーオフ	<p>プロジェクターに対するキー操作も入力信号もない状態が続いたときに、自動的に電源が切れる(オートパワーオフが動く)までの時間を指定します。自動的に電源が切れないように設定することもできます。</p> <p>5分/10分*/15分/20分/30分:オートパワーオフが動くまでの時間を指定します。</p> <p>オフ:オートパワーオフが動かないように設定します。</p> <p> メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オートパワーオフの設定は、本機がACアダプターで動作している場合のみ、変更することができます。本機がバッテリーで動作している場合は、オートパワーオフの設定は5分に固定され、変更できません。 ● 本機がバッテリーで動作している場合、現在の設定にかかわらず、本機に対するキー操作も入力信号もない状態が5分間続くと、自動的に電源は切れます。
機器設定1→パスワード	<p>パスワード機能の各種設定をします。</p> <p>[パスワード機能の利用] (58ページ)を参照してください。</p>
機器設定1→ダイレクトパワーオン	<p>この設定を「オン」にすると、本機に接続されたACアダプターをコンセントにつなぐだけで、本機の電源が自動的に入ります(初期設定:オフ)。</p>
機器設定1→言語	<p>表示言語を下記から選ぶことができます。</p> <p>英語/フランス語/ドイツ語/イタリア語/スペイン語/スウェーデン語/ポルトガル語/オランダ語/ノルウェー語/ポーランド語/フィンランド語/チェコ語/トルコ語/ロシア語/リトアニア語/ベトナム語/タイ語/マレー語/インドネシア語/アラビア語/中国語(簡体字)/中国語(繁体字)/韓国語/日本語</p> <p> 重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークモデルをご使用の方へ ネットワークモデルに特有の機能の使用中は、ここで選択した言語に関わらず、一部のメニューやメッセージが英語で表示される場合があります。
機器設定1→機器設定1の初期化	<p>映射中の入力ソースに対する機器設定1メニュー内の全項目を初期化します。</p>
機器設定2→音声出力 N	<p>音声をスピーカーから出力するには「スピーカー*」、AUDIO OUT端子から出力するには「ライン」を選びます。</p>
機器設定2→高地モード	<p>平地/高地での使用に合わせてファンの回転数を切り替えます。</p> <p>オン: 空気が薄い高地(海拔1,500m~3,000m)でご使用になるときはこちらを選択してください。ファンの冷却効率が高まります。</p> <p>オフ*: 平地(1,500m未満)での使用時は、こちらを選択します。</p> <p> 重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海拔3,000mを超える場所では本機をご使用にならないでください。
機器設定2→操作パネルロック	<p>プロジェクター本体のキー操作を無効化します。</p> <p>詳しくは「操作パネルロック」(48ページ)を参照してください。</p>
機器設定2→タイマーファンクション	<p>タイマーファンクションメニュー(56ページ)を表示します。</p>
機器設定2→機器設定2の初期化	<p>映射中の入力ソースに対する機器設定2メニュー内の全項目を初期化します。</p>
ネットワーク設定*1→無線LAN情報 N	<p>無線LAN接続関連の現在の状態を表示します。</p>
ネットワーク設定*1→ネットワーク設定の変更→IP設定(LAN1側) N	<p>本機をネットワークに接続する際のIPアドレスの設定方法を選択します。</p> <p>自動*: IPアドレスをネットワーク上のDHCPサーバーから自動的に取得します。</p> <p>手動: IPアドレスを手動で入力することで指定します。</p> <p>「手動」を選択すると、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の3項目が設定可能となります。</p>
ネットワーク設定*1→ネットワーク設定の変更→無線LAN機能 N	<p>本機の無線LAN機能を「有効*」と「無効」の間で切り替えます。</p>

メニュー項目名	できること
ネットワーク設定*1→ネットワーク設定の変更→無線LANモード N	<p>本機の無線LANモードを下記の間で切り替えます。</p> <p>アクセスポイント*: 本機が無線LANアクセスポイントとして動作するモードです。</p> <p>クライアント: 本機が無線LANのクライアントとして動作するモードです。本機を外部の無線LANアクセスポイントに接続する場合は、こちらのモードに切り替えます。</p> <p>ただし切り替える前に、あらかじめパソコンを使った設定(本機を無線LANアクセスポイントに接続するための設定)が必要です。詳しくは、別冊「ネットワーク機能ガイド」の「プロジェクトを既設の無線LANアクセスポイントに接続する」を参照してください。</p>
ネットワーク設定*1→ネットワーク設定の変更→ネットワーク設定の更新 N	「ネットワーク設定→ネットワーク設定の変更」に含まれるメニュー項目の設定を変更した後で、その変更内容を本機に反映させます。
ネットワーク設定*1→ネットワーク設定の変更→ネットワーク設定の初期化 N	ネットワーク設定を工場出荷時の状態に戻します。
情報	<p>本機に関する次の情報を表示します。</p> <p>入力信号、信号名、解像度、水平周波数、垂直周波数、走査方式、音声入力、ライト使用時間、Version (本機のROMバージョン)、Board No. (製品ごとに固有の基板ナンバー)</p>
全初期化→ユニット使用時間	現在の本機の使用累積時間が表示されます。この時間は初期化することはできません。
全初期化→全初期化	<p>次の項目を除いた設定メニュー内の全項目の設定が初期化されます。</p> <p>言語、パワーオンパスワード、ネットワーク設定パスワード、ネットワーク設定、ライト使用時間、ユニット使用時間</p> <p> メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本機に転送したユーザーロゴ画像 (37ページ) は、全初期化を行っても消去されません。

*1 「ネットワーク設定」の各メニュー項目を使った設定のしかたについて詳しくは、別冊の「ネットワーク機能ガイド」を参照してください。

リモコン(別売品)で利用できる機能

別売品のワイヤレスリモコン(YT-161)を使うことで、次の機能が利用できます。

- デジタルズーム ([D-ZOOM] キー)
 投影中の映像の一部を、最大2倍まで段階的に拡大します。
- ブランク ([BLANK] キー)
 入力ソースからの信号を遮断します。この機能の実行中、初期設定では何も表示されませんが、ロゴ画像やテストパターンを表示するように設定することも可能です。設定について詳しくは、「画面設定→ブランク時画面」(50ページ)を参照してください。
- フリーズ ([FREEZE] キー)
 投影中の映像を静止させます。

これをするには:	この操作を行う:
投影中の映像の一部を拡大する (D-ZOOM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. [D-ZOOM +] キーを押して、投影画面の中心部を拡大表示する。 2. 投影画面をさらに拡大するには [D-ZOOM +] キーを、拡大中の投影画面を縮小するには [D-ZOOM -] キーを押す。 3. 拡大中の投影画面を上下左右にスクロールするには、[▲]、[▼]、[◀]、[▶] キーを押す。 4. 通常の表示に戻すには、[ESC] キーを押す。
入力ソースからの映像と音声を遮断する (BLANK)	<ol style="list-style-type: none"> 1. [BLANK] キーを押す。 <ul style="list-style-type: none"> ● 入力ソースからの映像と音声が遮断され、設定メニューの「画面設定→ブランク時画面」(50ページ)で設定されている画面が投影されます。「ブランク時画面」として「プロジェクションオフ」が選択されている場合は、投影ライトが消灯します。 2. 映像と音声を元に戻すには、[BLANK]、[ESC]、または [⏻] キーを押す。 <ul style="list-style-type: none"> ● ただし [⏻] キーは、「ブランク時画面」として「プロジェクションオフ」が選択されている場合のみ使用できます。
映像を静止させる (FREEZE)	<ol style="list-style-type: none"> 1. [FREEZE] キーを押す。 <ul style="list-style-type: none"> ● 入力ソースからの映像がその時点で静止します。 2. 入力ソース映像に戻すには、[FREEZE] または [ESC] キーを押す。

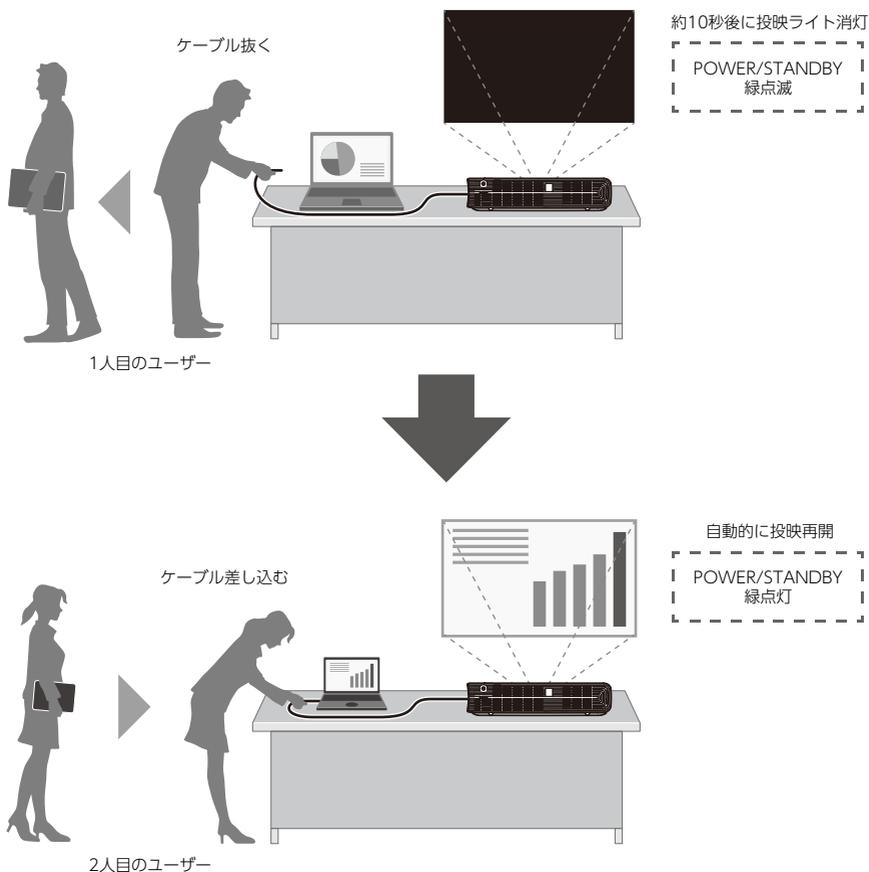
オートプロジェクションオフを利用する

オートプロジェクションオフは、本機への入力信号が途切れてから約10秒後に、自動的に投影ライトを消灯する機能です。投影ライト消灯から一定時間内*に本機への入力信号があれば自動的に投影が再開され、入力信号がなければ電源が切れます。

* ACアダプター給電時は約20分以内、バッテリー給電時は約5分以内。

オートプロジェクションオフの利用イメージ

例えばプロジェクターに、複数のユーザーがパソコンを代わる代わる接続して使うような場合は、下記の流れになります。



上記はケーブル接続の例を示していますが、無線LAN接続でも同様のことができます(ネットワークモデルのみ)。

オートプロジェクションオフの有効／無効を切り替える

本機の初期設定では、オートプロジェクションオフは「無効」に設定されており、動作しません。オートプロジェクションオフが働くようにするには、設定メニューの「画面設定→オートプロジェクションオフ」(50ページ)を「有効」に切り替えてください。

オートプロジェクションオフによる投映ライトの消灯について

投映ライトの消灯条件

投映中の入力ソース機器から本機への映像入力信号が途切れて、無信号時画面(50ページ)またはネットワーク待機画面*1(ネットワークモデルのみ)が表示されてから何も操作しなかった場合、約10秒で投映ライトが消灯します*2。

消灯する前の約5秒間は、「オートプロジェクションオフが有効です。プロジェクターの投映を中断します。」というメッセージが表示されます。

なお、音声入力信号の有無は、オートプロジェクションオフの動作には影響しません。

*1 ネットワーク待機画面についての詳細は、別冊の「ネットワーク機能ガイド」を参照してください。

*2 ネットワークモデルでは、同時に音声もミュートします。

次の場合、現在の設定状態にかかわらず、オートプロジェクションオフは動作しません。

- 本機の電源を入れた後、どの入力ソースからも一度も投映していない場合。
- テストパターン(47ページ)の投映中。

投映ライトの再点灯条件

本機が映像信号の入力を検出するか、本体またはリモコンのキー操作が実行されると、投映ライトが再点灯します。

投映ライトが消灯している間の本機の動作

- 投映ライトの消灯中は、POWER/STANDBYインジケータ(緑色)がゆっくり点滅します。
- オートパワーオフ(32ページ)の設定状態にかかわらず、投映ライトの消灯から下記の時間、本機に対するキー操作も入力信号もなかった場合は、自動的に電源が切れます。
 - － ACアダプター給電時:約20分間
 - － バッテリー給電時:約5分間

プレゼンテーションタイマーを使う

プレゼンテーションタイマーは、プレゼンテーションの残り時間を計るためのタイマーです。プレゼンテーションを妨げないように、投映画面の右下(初期設定時)に小さく表示されます。

タイマーファンクションメニューを表示するには

1. [MENU]キーを押して、よく使う機能メニューを表示する。
2. [▲]キーを押して「設定メニュー」を選択し、[ENTER]キーを押す。
 - 設定メニューが表示されます。
3. [▲]または[▼]キーを使って「機器設定2」を選択し、[ENTER]キーを押す。
4. [▲]または[▼]キーを使って「タイマーファンクション」を選択し、[ENTER]キーを押す。
 - タイマーファンクションメニューが表示されます。
5. タイマーファンクションメニューを閉じるには、[MENU]キーを押す。



メモ

- リモコンでは、次の操作でタイマーファンクションメニューを表示することもできます。
 - 投映画面にタイマーが表示されていないときは[TIMER]キーを2回、表示されているときは1回押す。

タイマーを表示するには(リモコン操作のみ)

投映画面にタイマーが表示されていないときに、[TIMER]キーを1回押します。
タイマー表示は約5秒後に自動的に消えます(「連続表示」の設定が「オフ」の場合)。

タイマーの各種設定を変更するには

1. タイマーファンクションメニューを表示する (56ページ)。
2. [▼]または[▲]キーを使って「表示位置」、「連続表示」、「設定時間」を順次選択し、必要に応じて現在の設定を変更する。

これをするには:	この操作を行う:
タイマーの表示位置を変更する	「表示位置」を選択し、[◀]または[▶]キーを使って「右下」、「右上」、「左上」、「左下」のいずれかを指定します (初期設定:右下)。
タイマー表示を自動的に消すか、消さないかを指定する	「連続表示」を選択し、[◀]または[▶]キーを使って「オン」または「オフ」を指定します (初期設定:オフ)。 オン: 投映画面上にいったんタイマーが表示されると、その他のダイアログが表示されたり、[ESC]キーを押したりしない限りは、タイマーは表示されたままになります。 オフ: 投映画面にタイマーが表示されてから5秒経過すると、タイマーは自動的に消えます。
タイマーのカウントダウン時間を設定する	「設定時間」を選択し、[◀]または[▶]キーを使って希望するカウントダウン時間を指定します。 5分~60分の5分刻みで設定できます (初期設定:20分)。

3. 変更を保存してタイマーファンクションメニューを閉じるには [ESC] を押す。
 - 変更後の設定ですぐにタイマーを開始するには、[ESC]キーを押す前に [▼]または[▲]キーを使って「タイマー開始」を選択し、[ENTER]キーを押します。

タイマーの各種操作

下記操作はすべて、タイマーファンクションメニュー (56ページ) を表示した状態で行ってください。

これをするには:	この操作を行う:
タイマーを開始する	「タイマー開始」を選択し、[ENTER]キーを押す。 <ul style="list-style-type: none">● タイマーファンクションメニューが消えて、カウントダウンが開始されます。● タイマーが00:00に達すると、その後60分間はカウントアップが行われます (-00:01~-60:00)。カウントアップ中は時間が赤字で表示されます。
タイマーを一時停止するには	「タイマー一時停止」を選択し、[ENTER]キーを押す。
一時停止中のタイマーを再開する	「タイマー再開」を選択し、[ENTER]キーを押す。
タイマーをリセットする	「タイマーリセット」を選択し、[ENTER]キーを押す。 <ul style="list-style-type: none">● タイマーがリセットされ、「設定時間」で設定されているカウントダウン時間に戻ります。

パスワード機能の利用

本機に対する操作を、パスワードで保護することができます。設定可能なパスワードは1つで、下記どちらの場合でも同じパスワードを使用します。

● 本機の使用開始時

本機の電源を入れた直後にパスワード入力を促すダイアログを表示します。

● ネットワーク機能の設定変更操作時(ネットワークモデルのみ)

設定メニューから「ネットワーク設定→ネットワーク設定の変更」(51ページ)に入るときに、パスワードの入力を促すダイアログを表示します。

パスワード機能の設定操作

これをするには:	この操作を行う:
パスワードを変更する	<ol style="list-style-type: none">1. 設定メニューを表示する(45ページ)。2. [▲]または[▼]キーを使って「機器設定1」を選択し、[ENTER]キーを押す。3. [▲]または[▼]キーを使って「パスワード」を選択し、[ENTER]キーを押す。4. 現在設定されているパスワードを入力し、[ENTER]キーを押す。<ul style="list-style-type: none">● 本機のパスワードはキー操作の組み合わせです。工場出荷時のパスワードを変更していない場合は、次のキーの入力を行います。<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">[▲] [▼] [◀] [▶] [▲] [▼] [◀] [▶]</div><ol style="list-style-type: none">5. [▼]キーを押して「パスワード変更」を選び、[ENTER]キーを押す。6. 新しいパスワードを8桁(8キー操作)以内で入力し、[ENTER]キーを押す。<ul style="list-style-type: none">● パスワード設定用には、次のキーを使用することができます。 [MENU]、[▲]、[▼]、[◀]、[▶]7. 手順6で入力したパスワードを再度入力し、[ENTER]キーを押す。<ul style="list-style-type: none">● 「新しいパスワードが登録されました」というメッセージが表示されたら、パスワードの変更は完了しました。[ESC]キーを押してください。● もしここで再入力したパスワードが、手順6で入力したパスワードと一致しない場合は、「パスワードが正しくありません。」というメッセージが表示されます。[ESC]キーを押して、手順6からやり直してください。
電源を入れた直後のパスワード保護設定を切り替える	<ol style="list-style-type: none">1. 「パスワードを変更する」の手順1~4を実行する。2. 「パワーオンパスワード」が選択されているのを確認し、[◀]または[▶]キーを使って「オン」と「オフ」の間で切り替える。<ul style="list-style-type: none">● 設定を「オフ」から「オン」に切り替えると、「電源をオンする時に、パスワードを確認するようにしますか?」というダイアログが表示されます。設定を「オン」に切り替えるには[ENTER]キーを、切り替えるのをやめるには[ESC]キーを押します。3. 設定メニューの操作を終了するには、[MENU]キーを押す。
ネットワーク設定変更時のパスワード保護設定を切り替える(ネットワークモデルのみ)	<ol style="list-style-type: none">1. 「パスワードを変更する」の手順1~4を実行する。2. [▼]キーを押して「ネットワーク設定パスワード」を選ぶ。3. [◀]または[▶]キーを使って「オン」と「オフ」の間で切り替える。<ul style="list-style-type: none">● 設定を「オフ」から「オン」に切り替えると、「ネットワーク設定の操作時に、パスワードを確認するようにしますか?」というダイアログが表示されます。設定を「オン」に切り替えるには[ENTER]キーを、切り替えるのをやめるには[ESC]キーを押します。4. 設定メニューの操作を終了するには、[MENU]キーを押す。

パスワード機能のご利用にあたり

パスワード機能のご利用にあたっては、次のことにご注意ください。

- パスワード機能はプロジェクターの盗難を防止する機能ではありません。あらかじめご了承ください。
- パスワード機能を使うとき、初回は工場出荷時のパスワードを入力します。工場出荷時のパスワードは、なるべく早くご自分のパスワードに変更してください。
- 別売品のワイヤレスリモコン (YT-161) をお持ちの場合は、リモコンのキー操作でも、パスワードの設定や解除が可能です。
- 設定したパスワードを忘れてしまうと、本機を使うことができなくなってしまいます。パスワードを忘れてしまった場合に備えて、メモなどにパスワードを控え大切に保管してください。

ご自分のパスワードを忘れてしまった場合には

プロジェクター本体、身分証明書 (社員証や運転免許証など、コピー可) の2点を「修理に関するお問合せ先」にご持参の上、パスワードの解除をご依頼ください (所定の解除手数料を申し受けます)。なおご依頼によりパスワードを解除した場合、ライト使用時間を除き、各種の設定がすべて工場出荷時の状態に戻ります。

クリーニングについて

本機は下記の要領で定期的にクリーニングしてご使用ください。クリーニング前には必ず本機からACアダプター(またはバッテリー)を取り外し、本機を十分に放熱してください。

本機外部のクリーニング

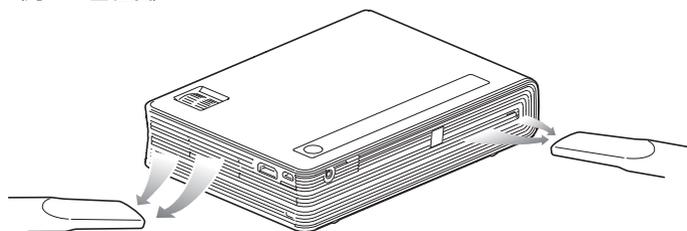
本機外部をクリーニングする際は、柔らかな布を薄い中性洗剤に浸し、固くしぼって拭いてください。ベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は絶対にご使用にならないでください。

レンズのクリーニング

市販のメガネ拭き用のクロスやクリーニングペーパーなどを使って拭いてください。なおクリーニング時は、レンズに必要な以上の力を加えたり、レンズを傷つけたりしないようご注意ください。

吸気口などのクリーニング

吸気口にはゴミやほこりがたまりやすいので、下図のように電気掃除機を使い、時々ていねいに吸い取ってください(月に1回程度)。



重要

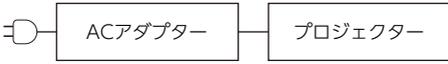
- 吸気口にほこりがたまったまま本機をご使用になると、本機内部の温度が過度に上昇し、故障の原因となります。
- ご使用の環境によっては、排気口にもほこりやゴミがたまる場合があります。このような場合は、吸気口と同様にクリーニングしてください。

故障かな？と思ったら

正常時のインジケーター

本機の状態を、上面の各インジケーターの色や点灯／消灯／点滅状態によって判別することができます。正常時のインジケーター表示は下表のとおりです。

■：点灯 ★：点滅

POWER/ STANDBY	STATUS	本機の状態
■ 橙	■ 橙	本機を電源 (ACアダプターまたはバッテリー) に接続した直後の数秒間です。スタンバイ状態 (下記参照) になるまでは、本機の電源を入れることはできません。
■ 赤	(消灯)	<p>下図の接続で、ACアダプターで本機を給電している場合*1のスタンバイ状態です。</p>  <p>[⏻] キーを押して、本機の電源を入れることができます。</p>
(消灯)	(消灯)	<p>下図いずれかで、本機にバッテリーが接続されている場合*1*2のスタンバイ状態です。</p>  <p>[⏻] キーを押して、本機の電源を入れることができます。*2</p>
■ 橙	★ 赤	 <p>電源として残量10%以下のバッテリー*2だけを本機に接続しています。この状態では、本機の電源を入れることはできません。</p>
★ 緑	(消灯)	本機の電源を入れた直後のウォームアップ中です。
■ 緑	■ 緑	本機の電源が入り、使用可能な状態です。「ブライトモード」(43ページ) が「オフ」に設定されています。
■ 緑	(消灯)	本機の電源が入り、使用可能な状態です。「ブライトモード」(43ページ) が「オン」に設定されています。
■ 緑	■ 橙	ネットワークシステムが起動するまでの、内部処理中です (ネットワークモデルのみ)。
★ 赤	(消灯)	本機の電源を切った直後の内部処理中です。

*1 電源との接続について詳しくは、「電源の準備」(26ページ) を参照してください。

*2 電源として本機にバッテリーだけが接続されている場合は、「バッテリー残量表示」(29ページ) を参照し、必ずバッテリー残量をご確認ください。バッテリー残量が10%以下の場合、本機の電源を入れることはできません。「バッテリーを充電する」(27ページ) または「バッテリーを本機に接続したまま充電する」(28ページ) を参照し、バッテリーを充電してください。



メモ

- 本機の電源が入っており、オートプロジェクションオフ(54ページ)によって本機の投映ライトが消灯している間は、POWER/STANDBYインジケータが緑色で点滅します。

エラー発生時のインジケータ表示とメッセージ



重要

- エラーが発生して電源を切った(または自動的に電源が切れた)後は、本機のファンが停止したのを確認してから、ACアダプター(またはバッテリー)を取り外してください。ファンの回転中にACアダプター(またはバッテリー)を取り外してしまうと、下記に従って対処しても、エラーから復帰できないことがあります。

エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ	本機の状態と対処
内部が高温になっています。 設置状況を確認してください。 (POWER/STANDBYインジケータは緑色で点灯します。)	内部が極端に高温になっています。下記を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> ●本機の吸気口/排気口がふさがれていないか、本機の周囲のスペースが十分に確保されているか確認する(35ページ「設置場所に関するご注意」を参照)。 ●本機の吸気口/排気口にほこりがたまっていたら電源を切って掃除する(60ページ「クリーニングについて」を参照)。
内部が高温になっています。 電源をオフにします。 (POWER/STANDBYインジケータは緑点灯から赤点灯に変わります。)	内部が極端に高温になったため、電源が自動的に切れました。下記を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> ●本機の吸気口/排気口がふさがれていないか、本機の周囲のスペースが十分に確保されているか確認する(35ページ「設置場所に関するご注意」を参照)。 ●本機の吸気口/排気口にほこりがたまっていたら電源を切って掃除する(60ページ「クリーニングについて」を参照)。 上記について問題が無い場合には、POWER/STANDBYインジケータが赤点灯に変わったのを確認後、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

エラー発生時のインジケータ表示一覧

ファンエラー

POWER/STANDBY	: 赤点灯
STATUS	: 橙点滅(約0.5秒周期)

ファンに異常が発生したため、電源が自動的に切れました。POWER/STANDBYインジケータが赤点灯に変わり、ファンが停止したのを確認してください。確認後、本機からACアダプター(またはバッテリー)を取り外し、インジケータが消えてしばらくしてからACアダプター(またはバッテリー)を接続して、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

システムエラー、その他誤動作

POWER/STANDBY	: 赤点灯
STATUS	: 赤点灯

システムに異常が発生したか、外部からのノイズなどの要因による誤動作のため、電源が自動的に切れました。POWER/STANDBYインジケータが赤点灯に変わったのを確認後、本機からACアダプター(またはバッテリー)を取り外し、インジケータが消えてしばらくしてからACアダプター(またはバッテリー)を接続して、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

光源ユニットエラー

POWER/STANDBY	: 赤点灯
STATUS	: 赤点滅(約1秒周期)

光源ユニットが消灯または点灯しなかったため、電源が自動的に切れました。POWER/STANDBYインジケータが赤点灯に変わったのを確認して一度ACアダプター(またはバッテリー)を取り外し、しばらくしてから接続し直して、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

メモリーエラー

POWER/STANDBY	: 赤点灯
STATUS	: 赤点滅(約2秒または1秒周期)

本機内部のメモリーエラーが発生したため、電源が自動的に切れました。POWER/STANDBYインジケータが赤点灯に変わったのを確認してください。確認後、本機からACアダプター(またはバッテリー)を取り外し、インジケータが消えてしばらくしてからACアダプター(またはバッテリー)を接続して、再度電源を入れてください。電源を入れ直してもエラーになる場合は、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機のトラブルと対処について

本機の使用中に何らかのトラブルが発生した場合は、故障とお思いになる前に、以下をご確認ください。

現象	原因と対処
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ● ACアダプターやバッテリーが、本機に正しく接続されていないことが考えられます。「電源の準備」(26ページ)を参照し、接続をご確認ください。 ● 電源として本機にバッテリーだけが接続されている場合は、バッテリーの確認ボタンを押して、バッテリー残量を確認してください(29ページ)。バッテリーのインジケーターが1つも点灯しない場合は、電源としてACアダプターを使用するか、バッテリーを充電してからご使用ください。 ● STATUSインジケーターが点滅(点灯)し続けたまま消灯しない場合は、何らかのエラーが発生しています。「エラー発生時のインジケーター表示一覧」(63ページ)を参照してください。
映像がまったく投映されない、または正常に投映されない	<ul style="list-style-type: none"> ● 本機と接続しているパソコンやビデオ機器の電源が入っていないか、ビデオ信号が出ていないことが考えられます。接続しているパソコンやビデオ機器の電源が入っており、正常に動作していることをご確認ください。 ● HDMI入力信号が、本機の設定状態と適合していないことが考えられます。「入力設定→HDMIイコライザ」(50ページ)と「入力設定→HDMI入力レンジ」(50ページ)の設定変更をお試しください。
メッセージやメニューが日本語で表示されない(言語が変わってしまった)	<p>下記の操作で、言語を「日本語」に設定してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [MENU] キーを押す。 2. よく使う機能メニューが表示されるので、[▲] キーを押す。 3. 一番下のメニュー項目(設定メニュー)が選択されるので、[ENTER] キーを押す。 4. ネットワークモデルの場合は、[▲] キーを5回押してから、[ENTER] キーを押す。 ネットワークモデルでない場合は、[▲] キーを4回押してから、[ENTER] キーを押す。 5. [▲] を2回押してから [ENTER] キーを押して、言語選択メニューを表示する。 6. [▲] または [▼] を使って「日本語」を選択し、[ENTER] キーを押す。 7. [MENU] キーを押して設定メニューを消す。
音が出ない(ネットワークモデルのみ)	<ul style="list-style-type: none"> ● 本機の音量設定が小さすぎることが考えられます。音量を調整してください。 ● 本機と接続した機器の音量が小さすぎると、音が出ていないことが考えられます。接続した機器の音量を調整してください。 ● 設定メニューの「機器設定2→音声出力」が「ライン」に設定されていることが考えられます。「音声出力」の設定を「スピーカー」に切り替えてください。
色がおかしい	<p>入力信号と本機の設定が合わないことが考えられます。下記の操作をお試しください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 設定メニューの「映像調整1→明るさ」を使って、明るさを調整する。 - 設定メニューの「映像調整1→カラーモード」を使って、カラーモードを変更する。 - 設定メニューの「映像調整1→カラーバランス」を使って、映像のカラーバランスを調整する。
文字がぼやける	<p>焦点が合っていないことが考えられます。焦点を合わせてください。</p>
画像が粗い、文字などが見えにくい、格子状の干渉縞(モアレ)が現れる	<p>パソコンからの入力信号が本機の投映解像度(1280×800)と一致していない場合に、こうした現象が起こることがあります。このような場合は、下記の操作をお試しください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パソコンの出力解像度を1280×800に設定する。 パソコンの設定方法については、パソコンの取扱説明書等をご覧ください。 ● 本機のアスペクト比の設定を「リアル」に切り替える。 「リアル」の設定では、入力信号が実サイズのまま(入力ソースの1ドットと本機の出力画素の1ドットが一致するように)投映されます。アスペクト比の切り替えの操作について詳しくは、「アスペクト比(投映映像の縦横比)」を切り替える」(45ページ)を参照してください。

現象	原因と対処
電源を入れたときに「パスワードを入力してください」というメッセージから先に進めない	設定メニューの「機器設定1→パスワード→パワーオンパスワード」が「オン」に設定されています。正しいパスワードを入力し、[ENTER]キーを押してください(58ページ参照)。
リモコンで操作できない	<ul style="list-style-type: none"> ● リモコンの電池が消耗していることが考えられます。電池を交換してください。 ● リモコンの操作可能範囲外で操作していることが考えられます。プロジェクターから約5m以内の範囲で操作してください。
STATUSインジケータが点滅(点灯)している	何らかのエラーが発生している可能性があります。「エラー発生時のインジケータ表示一覧」(63ページ)を参照してください。
光源ユニットが点灯しなくなった	光源ユニットの寿命または故障と考えられます。「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店に交換をご依頼ください。
突然電源がオフになり、再起動した	プロジェクターがセルフチェックを行った結果として、まれに自動的に再起動することがあります。故障ではありませんので、そのままお使いください。ただし、再起動が何度も連続して発生する場合は故障と考えられますので、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。



重要

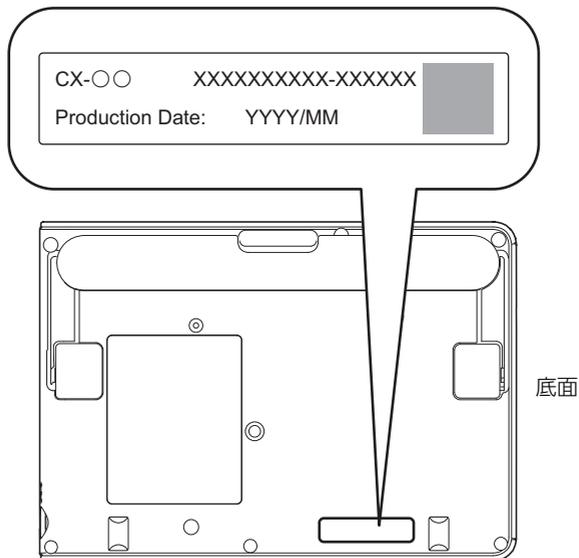
- 以下の操作により正常に戻る場合がありますのでお試しください。
 1. ACアダプター(またはバッテリー)を取り外し、10分以上放置する。
 2. 再度ACアダプター(またはバッテリー)を接続し、電源を入れる。
- この操作を行っても、動作が正常に戻らないときは、「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

シリアルナンバーとBoard No.の確認方法

個々の製品を識別するためのナンバーとして、プロジェクターごとに異なるシリアルナンバーとBoard No.(基板ナンバー)が割り当てられています。これらのナンバーは、下記の要領で確認します。

シリアルナンバー

本体に貼付されているラベルに記載されています。



Board No.

下記の操作で設定メニューの「情報」を表示することで、確認できます。

1. 設定メニューを表示する(45ページ)。
2. [▲]または[▼]キーを使って「情報」を選ぶ。
 - 「Board No.」の行をご確認ください。
3. [MENU] キーを押して設定メニューを閉じる。

本機を天井から吊して設置する

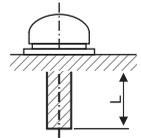
本機は天井から吊して設置することが可能です。天井から吊るして設置する場合は、本機を天地逆さまに設置します。

詳細は、販売店にお問い合わせください。



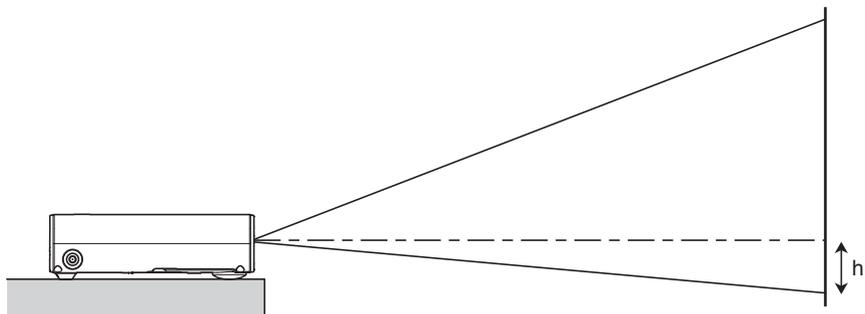
重要

- 本機を、火災検知器・報知器など消防設備のある天井へ取り付ける場合、本機を消防設備からできるだけ(最低1m)離してください。本機と消防設備が近いと、本機の排気により消防設備が誤動作する恐れがあります。また、蛍光灯や強い光源の近くに設置しないでください。リモコンで操作できなかったり、利用可能範囲がせまくなります。設置予定位置でのリモコン操作の可否は、必ず設置前にご確認ください。
- 本機を天地逆さまに設置した場合、映像が上下左右逆になりますので、設定メニューを使った設定の変更が必要になります。詳しくは、「画面設定→天吊投映」(50ページ)を参照してください。
- 本機と天吊り金具は、必ず3本のネジを使ってしっかりと固定してください。
- 本機と天吊り金具を固定するためのネジは、必ず下記の条件を満たすものをご使用ください。
 - ダブルセムスネジ(ワッシャーとスプリングワッシャーが付いたネジ)
 - ネジの直径:M3
 - ネジの長さ:ワッシャーとスプリングワッシャーの厚さ + 金具の厚さ + 噛み合い量(L = 4~6mm)指定より長いネジを使うと、製品内部を破損することがあります。また、指定より短いネジを使うと、十分な保持力が得られません。
- 天吊り設置後に、振動によるズーム、フォーカスのずれが発生する可能性があります。設置後も、本機のズームリングやフォーカスリングの操作が必要となる場合がありますので、ご注意ください。



投映距離と投映サイズについて

以下の投映距離の数値は、設置の際の目安です。

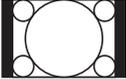
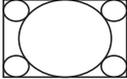
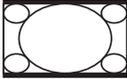
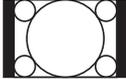
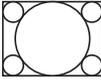
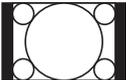
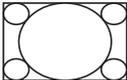
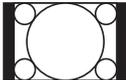
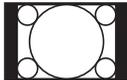
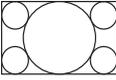
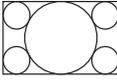
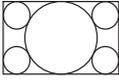
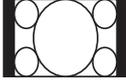
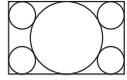
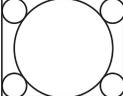
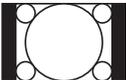
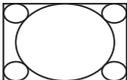
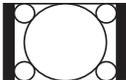


投映サイズ		投映距離 (約)		
型	対角線サイズ (cm)	最短距離 (m)	最長距離 (m)	h (cm)
30	76	0.75	0.93	7
40	102	1.00	1.24	9
60	152	1.52	1.88	14
77	196	1.96	2.41	17
80	203	2.04	2.51	18
100	254	2.56	3.14	23
150	381	3.85	4.73	34
200	508	5.13	6.30	45
300	762	7.71	9.46	68

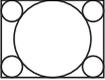
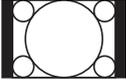
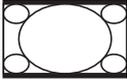
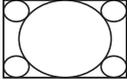
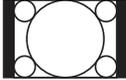
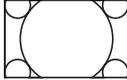
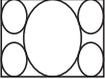
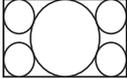
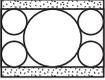
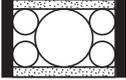
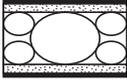
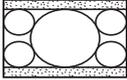
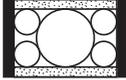
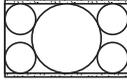
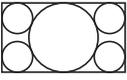
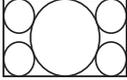
アスペクト比設定と投映画面について

本機への入力信号と本機のアスペクト比設定に応じた投映画面は、次のようになります。

入カソース:HDMI(PC)、ネットワーク

入力信号例	標準	フル	16:9	4:3	リアル
 SVGA (800×600)					
 XGA (1024×768)					
 WXGA (1280×800)					
 SXGA (1280×1024)					

入カソース:HDMI(DTV)

入力信号例	標準	16:9	16:10	4:3	レターボックス
 4:3アスペクト映像					
 スイーズ映像					
 Letter Box映像					
 16:9アスペクト映像					

対応信号一覧

HDMI (PC)	640 × 480/60
	800 × 600/60
	1024 × 768/60
	1280 × 720/60
	1280 × 768/60
	1280 × 800/60
	1280 × 960/60
	1280 × 1024/60
	1400 × 1050/60
	1920 × 1080/60
	1920 × 1200RB/60
HDMI (DTV)	SDTV (480p)
	SDTV (576p)
	HDTV (720p) (50)
	HDTV (720p) (60)
	HDTV (1080i) (50)
	HDTV (1080i) (60)
	HDTV (1080p) (50)
	HDTV (1080p) (60)

仕様

プロジェクター仕様

機種名		CX-E1	CX-F1
明るさ	ACアダプター駆動時*1*3	2000lm	
	バッテリー駆動時*2*3	1000lm	
コントラスト比(全白/全黒)*1*3		20000:1	
光源		レーザーおよびLED	
台形補正		縦方向:自動: +30°、手動: ±30° 横方向:手動: ±30°	
投映レンズ		手動光学1.2倍ズーム、手動フォーカス F 2.34~2.55 / f 16.8~20.4	
	レンズオフセット	33%	
投映画面サイズ		30~300型	
投映距離	60型	1.52m~1.88m	
	100型	2.56m~3.14m	
	最短投映距離	0.75m	
投映方式		1chip DLP®方式	
表示素子	素子サイズ	WXGA0.65型(アスペクト比16:10)	
	画素数	1,024,000画素(1280×800)	
色再現性		フルカラー(約10億7千万色)	
電源		ACアダプター(100V~(AC)、50/60Hz) プロジェクター(ACアダプター使用時:19V= (DC) / バッテリー使用時:14.4V= (DC))	
外形寸法		幅約215mm×奥行き約152mm×厚さ約43mm (突起部含まず)	
質量		約1.1kg	
セキュリティ対応	ケンジントンロック対応	○	○
	パワーオンパスワード	○	○
	ネットワークパスワード	-	○
消費電力	ライトコントロール:1	45W	
	ライトコントロール:7	100W	
	ブライモード:オン	120W	
待機消費電力		0.15W	
バッテリー駆動可能時間	ライトコントロール:1	約3.3時間*7	約3.1時間*8
	ライトコントロール:5	約1.7時間*7	約1.6時間*8
端子	デジタル入力(HDMI端子)	HDMI TypeA × 1、 HDCP対応	
	音声信号対応	-	○
	表示解像度	最大1920×1200(圧縮表示)	
	音声出力	-	ステレオミニジャック×1
	USBホスト	-	USB type A×1*4
	USBデバイス	Micro-USB type B×1:ファームウェア更新およびロゴ登録用	
スピーカー		-	1W×1、モノラル

機種名		CX-E1	CX-F1
走査周波数	水平	28.1kHz~74.0kHz	
	垂直	50Hz~60Hz	
無線対応*5		-	IEEE 802.11b/g/n対応
動作温度		5℃~35℃	
動作湿度		20~80% (ただし結露しないこと)	
動作高度		海拔0~3,000m	
光源寿命		約20,000時間 (保証 6,000時間)	
リモコン利用可能範囲*6		距離 5m以内 リモコン受光部正面に対して上下左右30° 以内	

- *1 ブライトモード「オン」のとき。JIS X6911:2015準拠。
 - *2 ライトコントロール「5」のとき。JIS X6911:2015準拠。
 - *3 出荷時における本製品の全体の平均的な値を示しており、JIS X6911:2015データプロジェクターの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については附属書2に基づいています。
 - *4 無線アダプターYW-41専用端子です。
 - *5 無線アダプターYW-41接続時。
 - *6 リモコンと本機リモコン受光部との角度が大きい場合 (リモコンをリモコン受光部に対して斜めから使用した場合は、リモコンの利用可能距離が短くなる場合があります。またリモコンの電池が消耗すると、リモコンの利用可能距離は短くなります。
 - *7 新品のバッテリーを常温で使用の場合。
 - *8 新品のバッテリーを常温、無線通信なし、スピーカーからの音声出力なしで使用の場合。
- 改良などのため、仕様は予告なく変更されることがあります。

バッテリー仕様 (YA-B10、別売品)

充電用電源	ACアダプター (100V~ (AC)、50/60Hz)
入力	19V= (DC) 7.9A
出力	14.4V= (DC) 86.4W
容量	6600mAh (95Wh)
充電所要時間	約4時間
外形寸法	幅約212mm×奥行約106mm×厚さ約23mm (突起部含まず)
質量	約640g
動作温度	5℃~35℃
動作湿度	20~80% (ただし結露しないこと)
動作高度	海拔0~3,000m

- 上記の充電所要時間は、バッテリーを使い切った状態 (残量0%) から、バッテリーにプロジェクターを接続せずACアダプターだけを接続して満充電 (残量100%) になるまでの、おおよその時間です。周囲の温度などの環境や、バッテリーの使用状況によって、充電所要時間は変化します。

ソフトインナーケース仕様 (YB-3、別売品)

外形寸法	幅約290mm×奥行き約230mm×厚さ約80mm (収納のしかたにより若干変わります)
質量	約185g
材料(生地)	表側: ポリエステル 裏側: ポリエステル

GPLおよびLGPLについて

- (1) 当社は、GNU General Public License (以下「GPL」という) およびGNU Lesser General Public License (以下「LGPL」という) の適用対象となるソフトウェア (以下「本ソフトウェア」という) を本製品に利用しています。
当社は、GPLおよびLGPLの定めに従い、本ソフトウェアのソースコードを開示しています。開示をご希望のお客様は、当社プロジェクターのダウンロードサイトからご確認ください。なお、本ソフトウェアを複製、改変、頒布する場合は、GPLおよびLGPLの条件に従ってください。
- (2) 本ソフトウェアは現状有姿のまま提供されるものとし、如何なる保証もいたしません。但し、本製品の不具合 (本ソフトウェアに含まれる不具合も含みます) に関する当社による保証条件には影響しません。
- (3) 本ソフトウェアに適用されるGPLおよびLGPLの全文については、弊社ウェブサイトにてご確認ください。

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE



Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
Responsible within the European Union:
Casio Europe GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany
www.casio-europe.com



Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
Responsible within the United Kingdom:
Casio Electronics Co. Ltd.
10 Norwich Street, London, EC4A 1BD, U.K.
www.casio.co.uk

CASIO®

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2